

第七十五回帝國議會
衆議院

所得稅法改正法律案外三十件委員會會議錄(速記)第三回

會議

昭和十五年二月十六日(金曜日)午後一時二十七分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 堀切善兵衛君

理事小山倉之助君 理事濱野徹太郎君
理事木村 淺七君 理事高橋熊次郎君
理事小笠原三九郎君 理事立川 平君
理事河野 密君
長野 高一君 山本 条吉君

成島 勇君 池本甚四郎君
中島彌圓次君 中村三之丞君
內藤 正剛君 長野 長廣君
川崎 克君 津倉 龜作君
渡邊玉三郎君 櫻井兵五郎君

伊藤 五郎君 石井德久次君
池田七郎兵衛君 上田 孝吉君
山川頼三郎君 豐田 收君
森 肇君 森田 福市君
田中 好君 西川 貞一君

付託議案

所得稅法改正法律案(政府提出)(第七號)
法人稅法案(政府提出)(第八號)
特別法人稅法案(政府提出)(第九號)
配當利子特別稅法案(政府提出)(第一〇號)
外貨債特別稅法中改正法律案(政府提出)(第一一號)
相續稅法中改正法律案(政府提出)(第一二號)
建築稅法案(政府提出)(第一三號)
鑛區稅法案(政府提出)(第一四號)
臨時利得稅法中改正法律案(政府提出)(第一五號)
營業稅法案(政府提出)(第一六號)
地租法中改正法律案(政府提出)(第一七號)
酒稅法案(政府提出)(第一八號)
清涼飲料稅法中改正法律案(政府提出)(第一九號)
砂糖消費稅法中改正法律案(政府提出)(第二〇號)
織物消費稅法中改正法律案(政府提出)(第二一號)
揮發油稅法中改正法律案(政府提出)(第二二號)
遊樂稅法案(政府提出)(第二三號)
遊樂飲食稅法案(政府提出)(第二四號)
取引所稅法中改正法律案(政府提出)(第二五號)
通行稅法案(政府提出)(第二六號)
入場稅法案(政府提出)(第二七號)
印紙稅法中改正法律案(政府提出)(第二八號)
骨牌稅法中改正法律案(政府提出)(第二九號)
特種法中改正法律案(政府提出)(第三〇號)
明治四十四年法律第四十五號中改正法律案(政府提出)(第三一號)
砂糖消費稅織物消費稅等ノ徵收ニ關スル件(政府提出)(第三二號)
大正九年法律第五十一號中改正法律案(內地臺灣又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ移出スル物品ノ內國稅免除ニ關スル件)(政府提出)(第三三號)
支那事變特別稅法及臨時租稅增徴法廢止法律案(政府提出)(第三四號)
營業收益稅法廢止法律案(政府提出)(第三五號)
資本利子稅法廢止法律案(政府提出)(第三六號)
法人資本稅法廢止法律案(政府提出)(第三七號)
臨時租稅措置法中改正法律案(政府提出)(第三八號)

瀧澤 七郎君 小見山七十五郎君
鈴木 英雄君 田万 清臣君
松永 義雄君 佐竹 晴記君
石坂 繁君 道家齊一郎君
藤本 捨助君 武田德三郎君
二月十五日委員中川重春君辭任ニ付其ノ補
闕トシテ伊藤五郎君ヲ議長ニ於テ選定セリ
出席國務大臣左ノ如シ
內閣總理大臣 米内 光政君
大藏大臣 櫻内 幸雄君
出席政府委員左ノ如シ
內閣書記官長 石渡莊太郎君
大藏政務次官 木村 正義君
大藏參事官 松田 正一君
大藏省主稅局長 大矢半次郎君
大藏書記官 田中 豐君
大藏書記官 山田 義見君
營繕管財局理事 松隈 秀雄君
本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ
所得稅法改正法律案(政府提出)
法人稅法案(政府提出)
特別法人稅法案(政府提出)
配當利子特別稅法案(政府提出)
外貨債特別稅法中改正法律案(政府提出)
相續稅法中改正法律案(政府提出)
建築稅法案(政府提出)
礦區稅法案(政府提出)
臨時利得稅法中改正法律案(政府提出)
營業稅法案(政府提出)
地和法中改正法律案(政府提出)
酒稅法案(政府提出)
清涼飲料稅法中改正法律案(政府提出)
砂糖消費稅法中改正法律案(政府提出)
織物消費稅法中改正法律案(政府提出)
揮發油稅法中改正法律案(政府提出)

物品稅法案(政府提出)
遊興飲食稅法案(政府提出)
取引所稅法中改正法律案(政府提出)
通行稅法案(政府提出)
入場稅法案(政府提出)
印紙稅法中改正法律案(政府提出)
骨牌稅法中改正法律案(政府提出)
狩獵法中改正法律案(政府提出)
明治四十四年法律第四十五號中改正法律
案(砂糖消費稅織物消費稅等ノ徵收ニ關
スル件)(政府提出)
大正九年法律第五十一號中改正法律案
(內地臺灣又ハ樺太ヨリ朝鮮ニ移出スル物品
ノ內國稅免除ニ關スル件)(政府提出)
支那事變特別稅法及臨時租稅增徴法廢止
法律案(政府提出)
營業收益稅法廢止法律案(政府提出)
資本利子稅法廢止法律案(政府提出)
法人資本稅法廢止法律案(政府提出)
臨時租稅措置法中改正法律案(政府提出)
○堀切委員長 ソレデハ所得稅法改正法律
案外三十件ノ委員會會ヲ是ヨリ開會致シマス、
今日ハ櫻井兵五郎君ニ御質問ヲ許シマス
○櫻井委員 稅制改革ニ付キマシテハ屢、本議
會ガ政府ニ要求致シタコトデアリ、ノミナラズ
我國朝野ノ多年ノ懸案デアリマス、其ノ懸案ニ
對シテ此ノ度政府ガ相當根本的ナ、劃期的ナ
案ヲ示サレタラ云フコトニ對シマシテハ、私共ハ
満足ヲ致スノデアリマス、併シナガラ其ノ案ノ
内容ニ付テ見マスルト、制度ノ改革ノミナ
ラズ、相當ノ増稅ヲ含ンデ出テ來テ居ルノ
デアリマス、改革ノ點ニ於テモ劃期的デア
リ、増稅ノ點ニ於テモ、量ニ於テ質ニ於テ
幾多ノ重大ナ問題ガ含マレテ居ルト考ヘル
ノデアリマス、即チ我國稅制ノ歴史ニ取り

マシテハ初メテノ大問題デアリマス、ソレ
故ニ私ノ冀フ所ハ、能ク政府ハ之ニ對シテ
懇切丁寧ナル説明ヲセラレ、能ク國民ニ理
解セシメ、國民ガ喜ンデ其ノ負擔ニ應ズル
ト云フ結果ヲ齎シタイト思フノデアリマス、
何カ稅ノ技術的ノ問題トシテハ、國民ニ痛
ミヲ感ゼシメズ稅ヲ徵ルコトガ宜イノダト
云フコトモ聞イテ居リマスガ、ソレハ勿論
ノコトデアリマス、併シ私ハ更ニ進ンデ精
神的ニ國民ガ喜ンデ其ノ負擔ニ應ズルト云
フ結果ヲ見タイ、殊ニ戰時體制下ノ今日ニ
於キマシテハソレハ最モ緊要ナコトト考ヘ
テ居ル次第デアリマス、先ヅ是ダケノコト
ヲ前提的ニ政府ニ要望致シテ質疑ニ入りマ
ス
先ヅ第一ニ大藏大臣ニ御尋ヲシタイ、大
藏大臣ハ先般ノ御説明ニ於カレマシテ、早
キ機會ニ於テ此ノ改革ノ實現ヲ見ルト云フ
コトハ議會ノ希望デモアツタガ、然ルニ昭
和十二年七月、今回ノ支那事變ガ勃發シ、
我國財政經濟ノ諸事情ニ著シキ變動ヲ生ズ
ルニ至リマシタノデ、暫ク是ガ實行ヲ見合
ハスノ餘儀ナキ事情ニ相成ツテ居ツタ、併
シナガラ今ヤ事變ハ長期建設ノ段階ニ入り、
之ニ對應シテ速カニ稅制ノ整備改革ヲスル
要アリト云フコトヲ劈頭ニ仰セラレテ居
ル、成タケ早ク稅制改革ヲヤルト云フコト
ハ望マシイコトデアツタガ、併シ事變ノ爲
ニ經濟上ノ大變動ヲ起シタカラ、ソレデ之
ヲヤルコトガ出來ナカツタ、今度ハ長期建
設ニ入ツタカラ、之ニ對應スル所ノ稅制整
備ガ必要ダト云フコトニナルノデアリマス、
先ヅ私共ハ改革案ノ審議ノ前提トシテ、此
ノ大藏大臣説明ノ意義ヲ十分明ニシテ置カ
ナケレバナラヌト思フノデアリマス、即チ

政府ハ本案考慮ノ前提認識トシテ、先ヅ今
ノ事變段階トシテ戰時經濟事情ハ當分否將
來ノ見透シトシテ餘リ大ナル變化ガナイ、
斯ウ云フコトヲ認メラレテ居ルノデアリマ
スカドウカ、是ガ一ツノ前提問題デアリマ
ス、而シテ其ノ事變ト云フノハ日支事變ヲ
範圍トスルノ見解ニ於テ大ナル變動ハナイ、
斯ウ認メラレテ居ルノデアリマスカドウカ
ト、今一ツハ此ノ長期建設段階ニ對應スル
ト云フコトハ、日支事變ダケノ範圍ヲ考ヘ、
我國ノ財政經濟ノ將來ヲ考ヘテ、ソレニ對
應スルト云フ意味デアリマスカドウカ、此
ノ二點ヲ先ヅ以テ確認ヲ致シテ置キタイト
思フノデアリマス
○櫻内國務大臣 此ノ度ノ稅制改正案ヲ出
シマシタコトニ付キマシテハ、只今櫻井君
ノ御話ノ通り事變ガ起リマシタノデ、今日
マデ遷延致シテ居リマシタケドレモ、今後
尙ホ長期ニ互リ、事變ガ更ニ終局致シタト
致シマシテモ、費用ヲ要スル點竝ニ國內事
情等ガ大ナル變化ヲシナイト云フ見透シガ
付キマシタノデ、稅制ヲ此ノ儘放置スルト
云フコトハ適當デナイト考ヘマシタノト、
同時ニ今後ニ於ケル所ノ所謂財政的見地
カラ見マシテ、一日モ速ニ稅制ノ改革ヲ
致シマシテ、ソレト同時ニ增收ヲ圖ルト云
フ事柄ガ必要デアルト認メラレマシタノ
デ、本案ヲ提案致シタ譯デアリマス
ルガ、此ノ目標ガ支那事變ダケヲ目
標ト致シテ居ルカドウデアアルカ、殊
ニ又長期建設ト云フコトガ支那事變ヲ目
標トシテ其ノ以外ノモノニ對シテハ考ヘテ
居ラナイノデアアルカドウカト云フ御話デア
リマスガ、只今ノ所デハ要スルニ支那事變
ニ對應シテ居ルト云フ見地カラ立案ヲ致シ

テ居リマスケレドモ、一面ニ於テ此ノ税制改正案ニ對シテ、收入増加ヲ圖ル上ニ於キマシテ彈力性ヲ附與シマシテ、一朝測ラザル事態ガ起リマシタ時ニハ、其ノ彈力性ニ依ツテ更ニ增收ヲ圖ルト云フ如キ事柄モ必要ガ起ツテ來ルト考ヘラレマスケレドモ、現在ノ狀態カラ申シマスルト、此ノ支那事變、即チ東亞ノ新秩序ト云フモノニ對シテ目標ヲ置キマシテ本案ヲ定メタヤウナ譯デアリマス

○櫻井委員 先ヅ増税ノ方カラ先ニ質問致シタイト思ヒマス、政府ハ平年度ニ大體五億一千萬圓ノ國庫ノ收入ノ增收ヲ適當ト考ヘラレタ其ノ理由ハ、ドウ云フヤウナ所ニ根據ガアリマスカ、其ノ根據ヲ伺ヒタイノデアリマス

○櫻井委員 平年度五億圓ト云フ目標ヲ置キマシタノハ、現在ノ財政狀態カラ見マシテ、大體財政狀態並ニ經濟界ノ實情カラ見マシテ、此ノ程度ノ増税ナレバ所謂經濟界ニ大ナル變動ヲ與ヘズ、又國家ノ財政上ニ對シマシテモ先ヅ此ノ分ナラバ適當デアラウト云フ見地カラ五億圓程度ニ納マルヤウナ本稅制ヲ定メタヤウナ譯デアリマシテ、大體ニ於キマシテ現下ノ經濟狀態ニ非常ナル打撃ヲ與ヘナイト云フコトヲ目標ト致シテ定メタヤウナ譯デアリマス

○櫻井委員 如何ニモ御尤モナ御説明デハアリマスケレドモ、ドウモモウ少シ具體的ニ内容ヲ伺ハナイト理解ハ出來マセヌ、大體此ノ位デ宜カラウ、國民生活ノ上ニモ生産力擴充ノ上ニモ、其ノ他ニモ、斯ウ言ハレマスケレドモ、ドウモ抽象的デアリマス、大藏省ト致シマシテハ、實際ニ立案セラルルニハサウ云フ、今御説明ノ範圍ダケデハ

ドウモ立案ガ出來ニクイノデナイカ、モツト内容のナコトガオアリニナラウカト思フノデアリマスルガ、其處ニ前ノ大藏大臣ノ今ノ政府委員石渡閣下モ居ラレマスガ、モウ少シ進シテ承ツテ見タイ、國民ノ擔稅力ヲドウ御計リニナツテ居ルカ、其ノ尺度ノ内容ト云フモノハ大體下シナモノデアルカ、即チ國民所得ノ増加ノ趨勢デアルトカ、或ハ實際上ノ生産狀況ヲ以テ考ヘラレルトカ、又其ノ他幾多ノ負擔力ヲ御考ニナル尺度デアラウト思フ、ソレ等ノ具體的ノ内容ヲ今少シク御示シニナル必要ガアル、國民所得ノ増加ノ事變前ト事變後ノ趨勢、生産狀況等モ舉ゲラレ、其ノ他色々尺度トシテ御計リニナツテ居ル具體的ノモノガアレバ、ソレ等モ併セテ、今少シク內究的ノ御説明ヲ政府委員カラ承リタイノデアリマス

○櫻井委員 詳シイコトハ政府委員カラ御説明申上ゲマスガ、目標ト致シテ、ドウ云フ所ニ目標ヲ置イタカト云フ御話ハ、是ハ御質問トシテハ御尤モナコトデアリマス、果シテ國民所得カラ見テ、之ヲ耐ヘルカ否カ、此ノ點ニ付キマシテハ、是ハ深く考ヘナケレバナラヌコトデアリマシテ、丁度歐洲大戰ノ時ニ於ケル所得ト、各國民ノ租稅ニ依ツテ負擔シタ力、並ニ最近ニ於ケル歐羅巴並ニ亞米利加諸國ノ國民所得ト稅ニ對スル負擔ノ狀態、斯ウ云フ事柄ハ相當ニ考慮ニ入レテ出來タノデアリマシテ、今日日本ノ國民所得ハ、正確ナル數字ハマダ最近ノモノハ分ツテ居リマセヌガ、大體ニ於テ二百五十五億ト云フ推算ガ出テ居リマスルケレドモ、先ヅ二百億乃至二百五十億ノ間デアラウト思ヒマス、ソレニ對シテ今マデノ稅ト今回ノ増稅トヲ加ヘタ割合、又

最近ノ經濟上ノ發達ノ程度、其ノ他ヲモ十分考慮ニ入レマシテ、稅額ヲ定メ、而シテ一面公債ニ對スル所ノ利拂ノ點ヲモ考慮致シマシテ、日本ノ財政上ノ將來ニ對スル所ノ見地カラモ之ヲ考ヘテ、大凡ソ決メタ譯デアリマス、只今御話ノ數字ニ互リマシタ問題ハ、政府委員カラ御答辯ヲ申上ゲマス

○大矢政府委員 國民所得ノ増加ノ趨勢、或ハ生産ノ増加ノ趨勢ハドウ云フ風ニナツテ居ルカト云フ御尋デゴザイマスガ、實ハ國民所得ノ統計ハ昭和五年ニ於キマシテ、內閣ガ調査シタノガアリマスルガ、其ノ後ノモノハ發表サレテ居ナイノデアリマシテ、私共ハ稅務ノ立場カラ致シマシテ、一應ノ推算ハ致シテ居リマス、其ノ推算方法ト致シマシテハ、大體毎年第三種所得稅ノ増加ノ割合ヲ以テ推算致シテ居ルノデアリマス、サウ致シマスルト、昭和十一年ニ於キマシテハ、第三種ノ所得ハ二十七億程度デアリマス、ソレガ昭和十二年ニハ三十二億、昭和十三年ニハ四十二億、昭和十四年ニハ五十億、斯ウナツテ居リマス、即チ十一年ニハ二十七億、十四年ニハ五十億、先ヅ大體此ノヤウニナツテ居リマス、隨ヒマシテ國民所得モ、假ニ是同ジヤウナ割合デ殖エテ居ルト致シマスルト、自ラ其ノ程度ガ推算出來ルト思フノデアリマス、一方生産額ノ方ハ今手許ニ詳シイ數字ハ持ツテ居リマセヌガ、商工省ノ發表ニ依ル工業生産高ニ依ルト、昭和十一年ハ百二十二億、昭和十二年ハ百六十四億、昭和十三年ハ百九十四億ト云フ風ニナツテ居リマシテ、昭和十四年ハマダ發表セラレテ居ナイノデアリマス、大體數字ノコトニ付キマシテハ以上ノ通りデアリマス

○櫻井委員 稅ノ取高ノ趨勢ニ依ツテ大體推定シテ居ルト云フノデスガ、大藏省トシテハ大體サウ云フ見當カラヤラレルトコトハ御尤モダト思ヒマスケレドモ、併シソレノミヲ以テ完壁ト考ヘルコトハ私共ハ出來ナト思ヒマス、ソレハ稅ヲ取ル其ノ時ノ手加減ニ依ツテ違フ、ココ五七年以前ト以後トデハ、一體稅ノ取り方ノ大藏省ノ態度ガドウナツテ居ルカト云フコトヲ考ヘテモ、ソコニ相當ナ考慮ヲシナケレバナラヌ點ガ殘サレテ居ルト思フノデアリマス、國民所得ノ點モ色々アチコチ調ベタ物ニ依リマス、是ハ事變後ニ倍位ニナツテ居ルカモ知レマセヌ、稅ノ方ハ其ノ比例以上ノ増徴デアリマス、即チ幾多ノ角度カラ見ナケレバナリマセヌ、銀行預金ガ殖エタトカ、貯蓄ガ殖エタトカト云フコトヲ申シマシテモ、是ハ其ノ中ノドレダケノ部分ヲ「インフレ」要素ニ考ヘナケレバナラヌカト云フコトモ、吾々ハ十分吟味シナケレバナラヌト思ヒマス、今外國ノ事例モ參考ニシテ居ルト云フ御説明モアツタヤウニ思ヒマスガ、併シナガラ國民所得ノ程度ノ違フ外國ノ例ヲ直ダ取入レルコトモ出來マセヌ、單ナル參考ニ過ギナイト思ヒマスガ、何レニシマシテモ其ノ五億ト云フコトヲ決メラレタル所ノ內容的ナ根據ヲモウ少シ詳シク伺ヒタイト思フノデアリマス、併シマダ是カラ追々ソレ等ニ關スル御質問ガアラウト思ヒマスカラ、先ヅ此ノ程度ニ止ヌマスルガ、唯之ヲ總括シテ一言伺ヒタイト思ヒマスノハ、大體今度ノ増稅ハ擔稅力ノ殆ド最高限ト云フ所へ行ツテ居ルカ、ソレトモ又或ル程度ノ餘裕ヲ殘シテ居ルト云フ御考デアリマスカ、一言デ宜シイ、筒一杯ノ課稅ダト御考ニナルカ、

餘裕ヲ殘シテ居ルト御考デアルカ、其ノ點
ノ御說明ヲ願ヒタイ

○櫻井委員 先ヅ此ノ増稅案ハ今日ノ
經濟上ノ狀態カラ申シマスレバ、此ノ程度
ナラバ擔稅ヲシテ何等經濟上大ナル障礙ガ
ナイト、斯様ニ考ヘテ居リマスガ、擔稅力
ガ此ノ上ニアルカナイカト云フ問題ニ付キ
マシテハ、必ズシモ是ガ擔稅力ノ極度トハ
考ヘテ居ラナイノデアリマスアレドモ、從來
ニ比シテ相當ノ増稅デアリマスノデ、先ヅ
此ノ程度デ然ルベシト考ヘタノデアリマス
○櫻井委員 政府ハ此ノ案ヲ實施セラレタ
後ニ於テ、重ネテ左程遠カラ内ニ増稅ヲ
シナケレバナラヌト云フ見透シヲ、持ツテ
居ラレマスガ、此ノ點ヲ伺ヒタイ

○櫻井委員 大體ニ於キマシテハ、斯
ノ如キ大増稅ヲ行ヒマスノデアリマスガ
ラ、當分ノ間更ニ増稅ヲ致スト云フ風ナ考
ハ只今ノ所持ツテ居ラナイノデアリマス、
併シナガラ御承知ノ通りノ國際情勢デリ、
又非常ナル經濟界ノ發展其ノ他ニ依リ思ハ
ザル變化ガ起リマシタ場合ニ於キマシテハ、
更ニ増稅ヲスルト云フコトガ絕對ニナイト
ハ保證出來ナイ譯デアリマシテ、只今當分
ノ所、増稅ヲ此ノ上スルト云フ風ナ考ハ
持ツテ居ラナイノデアリマス

○櫻井委員 擔稅力ノ上カラ見テ相當高度
ノ課稅ニハ相違アリマセヌ、併シナガラ是
以上ニ絕對ニ餘裕ガナイトモ考ヘテ居ラナ
イト云フ程度ノ御說明デアリマシタガ、私
ハ目下ノ我が戰時經濟及ビ國際事情カラ考
ヘマシテ、二ツノ觀點カラ、何レカト云ヘバ、
少シヅツ控ヘ目ニ稅ヲ考ヘテ置ク必要ガナ
カ、斯ウ思フノデアリマス、總理大臣ト大藏大
臣ニ伺ヒタイノデスガ、先程ノ大藏大臣ノ御

說明ニ依ツテモ、先ヅ此ノ稅制改革ノ對應シ
テ居ル點ハ、日支事變ヲ限界ニシテ居ル、斯ウ云
フノデアリマス、私モサウデアラウト認定シ
テ居ツタノデアリマス、然ルニ現在ノ我國ノ
國際的立場ハ事變ノ限界タル現情ノミヲ以
テ安シジテ居ルコトハ絕對ニ許サレナイ、
「モンハン」ノ事情デ考ヘテ見マシテモサウ
デアル、イツ何時如何ナル事態ニ迫ラレヌ
トモ限ラス、大陸ノ方カラ考ヘテ見テモサ
ウデアル、海洋ノ方カラ考ヘテ見マシテモ、
英米ノ關係ガ實際ドウ云フ實情ニアルカト
云フコトニ對シマシテハ、私共ハ深イ考
慮ヲ拂ツテ居ラナケレバナラヌコトと思
フ、隨デ是等ノ觀點カラ致シマスレバ、我
ガ國力ヲ茲ニ擧ゲテ盡スヤウナコトハ絕對
ニ避ケナケレバナラナイ何トカ工夫シテ、
國力ノ餘裕ヲ幾分ツツ殘シナガラ、現在ノ
時局ニ對應シテ行カナケレバナラヌト云フ
重大ナル點ガアルト私ハ思フノデアリマ
ス、此ノ點カラ致シマシテ、ドウシテモ私
ハ國民負擔ノ點ニ於テ幾分ノ餘裕ヲ殘シナ
ガラ他ノ色々ナ工夫ヲシテ行クコトガ至當
ナヤリ方デアルト思フノデアリマスガ、此
ノ點ニ關シテハ總理大臣ノ御考ガ、其ノ方ガ
宜イト御考ニナリマスガ、ソレトモ餘裕ヲ
殘ス必要ハナイ、萬事早ク片付ケル爲ニハ
左様ナコトハ考テ居レヌト云フ考ヘ方デア
リマスガ、其ノ點ヲ寧ロ政治的ノ考ヘ方ニ
於テノ御考ヲ伺ヒタイノデアリマス

ソレカラ續イテモウ一ツ、私ガ多少控ヘ目
ニ考ヘル方ガ宜シイト云フ點ハ、我國ノ經
濟ノ狀況ハ、現下ニ於テ尙ホ生産擴充ノ過
程ニアル、是ガ一應生産擴充ガ出來テシマ
ツテ、サア是カラドウ考ヘルカト云フ場合
ト生産擴充ノ途中ニアル場合トハ、少シク
區別ヲシテ、私共ハ經濟政策ニ付テノ考ヘ
方ヲ二様ニシナケレバナラヌト思フ、生産
擴充ノ途中ニアル場合ニハ餘リニ高率ノ課
稅ヲスルト云フコトハ、新ニ時局ノ爲ニ必
要上起ツタ事業ガ最初ハ相當赤字モ續キマ
セウガ、少シク利益ガ出ルトシテモ直グ稅
金デ芽生ヲ摘マレテシマフ、モウ其ノ事業
ハ伸ビル力ハナクナル、新シイ事業デナク
テモ蓄積ガ少クナリマス、自動的ニ經濟
ガ膨脹シテ行ク力ヲ失フノデアリマス、政
府ノ指導スル力、政府ノ統制スル力ニ依ツ
テ我國ノ戰時生産目的ガ達セラレル場合
ト、國民ガ自動的ニ經濟的ニ動イテ來タ場
合ト、何レガ其ノ結果ニ現ハレル果實ガ多
イカト云フコトハ、是ハ說明スルマデモナ
イ、國家ノ政策ノ及ビ範圍ト云フモノハ自
ラ限界ナル、個人ノ活動ノ總和ニ比ベマ
シテハ比較ニナラヌ、此ノ意味ニ於キマシ
テ、私ハ出來ルダケ新シイ事業ノ伸ビル力
ノ芽生ヲ摘マナイヤウニ、蓄積ヲ少クシテ
自動的ニ膨脹スル力ヲ止メナイヤウニシナ
ケレバナラヌト思フ、斯様ナ經濟的ノ觀點
カラ致シマスレバ、稅ハマダ課リ得ルト思
ツテモ、多少控ヘ目ノ方ガ宜シイ斯ウ云フ
コトガ考ヘラレルト思フノデアリマスガ、
前ノ點ハ總理大臣カラ御答ヲ願ヒ、後ノ點
ハ大藏大臣カラ御答ヲ願ヒタイと思ヒマス
○米內國務大臣 今回ノ増稅ニ依リマシテ
國民ノ負擔ガ相當ニ増加スルノデアリマス
ガ、尙ホ時局重大性ヲ加ヘマシテ、更ニヨ
リ大ナル負擔ヲ國民ガ負ハナケレバナラヌ
ト云フヤウナ情勢ニ立至リマシテモ、國民
ノ愛國心ニ依リマシテ、此ノ負擔ニ國民ハ
堪ヘ得ルト云フコトハ、私ノ確信ヲ致シテ
居ル所デアリマス、今回ノ稅制改正モ、斯

ル事態ニ立至リマシタ場合ニ容易ニ增收ヲ
圖リ得ル仕組ニナツテ居ルト、斯ウ考ヘテ
居リマス

○櫻井委員 本日ノ國際情勢カラ見マ
シテ、將來ノコトヲ考ヘテ、増稅ニ對シテ
控ヘ目ニシテ置ク必要ガアルデハナイカト
云フ御話ハ洵ニ御尤モデアリマスアレドモ、
先刻來申シマス通り、今回ノ増稅ガ最高極
度ノモノデハナイノデアリマシテ、今日ノ
經濟界ニ大ナル支障ノ起ラス程度ニ於テ増
稅ヲシヨウ、斯ウ云フ考カラ此ノ稅制改正
案ヲ作ツタ譯デアリマス、同時ニ是ガ生産
擴充ニ對シテ支障ヲ起シハシナイカ、斯ウ
云フ御話デアリマスガ、此ノ點ハ相當考慮
致シマセヌケレバ、國ノ發展ヲ阻礙スル譯
デアリマスカラ、此ノ點ニ付キマシテモ少
カラズ注意ヲ拂ツタ譯デアリマシテ、所謂
重要ナル工業ニ付キマシテハヤハリ相當ノ
年限ノ間免稅ヲ行フコトヲ致シ、又從來ノ
事業ト雖モ餘リ壓迫シナイヤウニ、即チ今
日ノ利潤問題ナドカラ申シマス、一割程度
マデヲ認メルト云フコトハ多少議論ノアル
所デアリマスアレドモ、兎ニ角事業ヲヤツテ
行ケル、事業ヲ阻礙シナイト云フ見地カラ、
其ノ邊ニモ考慮ヲ致シマシテ、利益率一割
以下ノ法人ニ付マシテハ、餘リ甚シク増
稅ニナラヌヤウニ考慮ヲ拂ツテ本案ヲ作ツ
タヤウナ譯デアリマス

○櫻井委員 總理大臣ハ今度ノ改革ハヨリ
以上ノ必要ノ場合ハ更ニ稅ヲ取り得ル組織
ニナツテ居ル、尙ホ又サウ云フ場合ニハ國
民ノ愛國心ニ憑ヘテ行クカラ、相當ノ自信
ヲ持チ得ルト云フ意味ノ御答辯ガアリマシ
タ、ソレハ御尤モデアリマス、サウ云フ組
織ニナツテ居リマス、稅制體系ヲ整理シテ、

何時デモ伸縮出來ルヤウニ——ト云ツテモ縮ノコトハ殆ド吾々ハ豫想出來ナイト考ヘラレマスガ、伸ビルヤウニナツテ居ル、又固ヨリ國民ガ國家ノ有事ニ際シテ愛國心ヲ持ツテ總テニ對處スルコトハ當然デアリマスガ、併シナガラ問題ハドウ云フ程度ニ考ヘテ提テ取ツテ行クカト云フコトデアリマス、經濟ノ問題ハ愛國心ノ外ニ、ヤハリ經濟ノ理法ト云フモノヲ度外視シナイデ、國家ノ政治ノ梶ハ御取リヲ願ヒタイ、斯様ニ考ヘルノデアリマス、併シナガラサウ梶ヲ御取リニナツテ居ラヌト云フノデアリマセス、人格ニ千鈞ノ重ミガアル總理大臣ニ對シテハ國民ハ深イ信頼ヲ持ツテ居ルト思フノデアリマスガ、尙ホ一層有ユル角度カラ御考慮ヲ願ヒタイノデアリマス、總理大臣ガ御多忙デアレバ、私ノ限りニ於テハ總理大臣ニ對スル質問ハ此ノ程度ニ止メテ置キマス

ソレカラ次ニ此ノ度ノ改正法ニ依ツテ支那事變ノ特別稅等ノ臨時ノ増稅ヲ新稅ヲ基本法ニ繰込シ、之ヲ廢止サレ、或ハ又獨立法トセラレタモノモアルヤウデアリマスガ、是ハ要スルニ臨時ノ稅法ヲ恒久的ナモノニシタ、國民ニ對シテハ是ハモウ事變中ダケデ臨時ニ才前等ニ稅金ヲ課ケルノダゾト、斯ウ云ツテ居ツタ、ソレヲ今度一夜ノ内ニ、是ハ臨時ノ積リデアツタガ永久ニ課ケルノダゾ、斯ウ御變ヘニナル、之ニ對シマシテハ今ノ戰時經濟上カラ已ムヲ得ザルコトトハ思ヒマスケレドモ、一應政府ノ辯明ヲ伺ツテ置カケレバナラヌト思フノデアリマス

○櫻内國務大臣 洵ニ御尤モナ御質問デアリマスガ、當初支那事變ト云フモノガ今日

考ヘテ居リマス如ク、長期段階ニ入ルト云フ風ニハ多ク考ヘテ居ラナカツタノデアリマス、最早今日長期建設ニ進ミマシテ、サウシテ今後當分ノ間容易ニ財政ガ縮小スルト云フコトガナク、又經費ガ非常ニ減少スルト云フコトガナク、斯ウ云フ狀態ニナリマシタノデ、是ニ於キマシテ已ムヲ得ズ是ハ永續スルモノト云フ見透シヲ付ケナケレバナラナクナツタノデアリマス、其ノ見地カラ致シマシテ、此ノ度此ノ増稅ヲ斷行スルノ外ナイト考ヘタノデアリマシテ、暫ク稅制ノ改正ヲ見合ハシタノヲ、此ノ機會ニ之ヲ實行致スト云フコトニ相成ツタノデアリマス

○櫻井委員 政府委員カラ伺ヒタイノデアリマスガ、今ノ臨時ノモノヲ基本法ニ繰込シ、今ノ御説明ノ考カラ致シマスレバ、臨時利得稅、是モ同時ニ寧ろ基本法ニ繰込シ、サウシテ稅制ノ簡易化ヲ期セラレタラドウ云フモノダラウカ、是ハ技術的ニサウハ出來ナイノデアリマスガ、又イヤサウデハナイ、アレコソ時局ノ爲ニ利益ノアルモノニ課スル特別ナモノデアアルカラ、其ノ事變ノ爲ノ利益ガ段々低下シテ來レバ自動的ニソレガナクナルノデアアル、ダカラアレハ殘シテ置カケレバナラス、斯ウ云フ御考デアリマスガ、先刻ノ大臣ノ御説明カラ考ヘマスレバ、是モヤハリ同時ニ基本法ニ繰込マレル方ガ簡易化スデハナイカ、併シナガラ是ハ技術的ノ問題ガアルカモ知レマセヌガ、其ノ點ヲ一ツ政府委員ノ方カラ御説明ヲ願ヒマス

○大矢政府委員 洵ニ御尤モノ御尋ト存ジマス、臨時利得稅ハ當初創設シタ場合ニ於キマシテハ、利得ニ對スル臨時稅、斯ウ云フ意味ダト政府ニ於テ申シテ居タノデゴザイマシテ、此ノ考ハ今デモ變ツテ居ナイノデアリマス、大體事變前ノ三年ヲ基準年度ト致ス建前ニナツテ居リマスカラシテ、ドウシテモ是ハ法制ノ技術的立場カラ致シマシテ恒久稅ト致シ兼ネル點ガアルノデゴザイマス、他ノ一般ノ支那事變特別稅法中ニ規定シテ居ラレタ諸稅ト其ノ點ニ於テ變ルノデアリマシテ、全ク立法技術上ノ點ガ一ツノ重要ナ理由ニナツテ居ル次第デゴザイマス

○櫻内委員 ソレデハ四、五、六ヲ基準トシタ甲種ハ、アレハドウ云フ譯デ廢止シタノデアリマスガ

○大矢政府委員 是ハ前ニ申上ゲマシタ通り臨時稅デゴザイマスガ、其ノ基準年度ヲ餘リ古キモノヲ存置シテ置キマス、臨時稅ノ趣旨モ非常ニ薄クナツテ來ル嫌ヒガアルノデアリマス、昭和四年、五年、六年ト申シマス既ニ十年以上モ前ノコトデアリマスカラ、此ノ際ハ此ノ甲種ノ基準年度ヲ探ルコトハ廢止致シマシテ、支那事變直前ノ三年間ヲ基準年度トシテ乙種利得ノモノヲ存置シテ行カウ、斯ウ考ヘタ次第デゴザイマス

○櫻井委員 此ノ點ハ理論カラ生レテ居ルヤウデアリマシテ、ソレガ時ノ差ニ依ツテ相違スルト云フ今ノ御説明ハ、少シマダ私ニハ了解出來ニクイノデアリマスケレドモ、是ハ次ノ機會ニ伺ヒマス

次ニ今回ノ増稅ハドウ云フ意味ヲ持ツテ居ルノデアリマスガ、戰費支辨ト云フコトガ主デアリマスガ、或ハ事變後ノ赤字財政整理ト云フコトガ目標デアリマスガ、ソレトモ又「インフレ」ヲ防グト云フコトニ相當ノ重點ヲ置イテ居ラレルノデアリマセウ

カ、是等ノ點ヲ一ツ大臣カラデモ、政府委員カラデモ伺ヒタイト思ヒマス

○櫻内國務大臣 今回ノ増稅ノ意義ハ戰費支辨ニアルノカ、或ハ「インフレ」防止ニアルノカ、斯ウ云フ御尋デアリマスガ、先刻來申シマス通り、此ノ事變費ト云フモノハ非常ナ巨額ニ達シテ居リマス、サウシテ一般ノ豫算モ國費モ非常ナ龐大ト相成ツテ居リマス、此ノ際ニ於テ歳入ノ増加ヲ圖ラズシテ、總テヲ公債ニ俟ツト云フ事柄ハ、是ハ實際ニ於テハ非常ナ惡影響ヲ與ヘル譯デアリマスノデ、其ノ或ル部分ヲ増稅ニ俟ツテ國民ノ負擔ニ依ル、或ル部分ヲ公債支辨ニ依ルト云フ事柄ハ、是ハドウモ免ルベカラザル今日ノ如キ場合ニ於ケル處置デアラウト思フノデアリマス、而シテ其ノ程度ガドウ云フ風ナ程度デアアルカト申シマス、御承知ノ通り戰費ニ對スル利子ヲ目標トモ致シテ居リマセス、又戰費ノ中ノ極メテ一部分ヨリ負擔シ得ナイ狀況デアリマスカラ、戰費負擔ト云フ意味バカリニモ取レナイノデアリマス、唯現在ノ經濟界ノ實情ニ即シテ此ノ増稅ヲ致シテ經濟界ニ影響ガナイ、同時ニヤハリ戰費支辨ノ少クトモ戰費ノ爲ニ支拂ハレタ所ノ公債ノ利子ハ十分ニ支拂ヒ得ル、斯様ニ考ヘマスコトガ第一ノ理由ニナツテ居リマス、更ニ惡性「インフレ」防止ノ效果ニ付キマシテハ、是ハヤハリ收入ノ多イ方面カラ稅ヲ多ク取ルコトニナリマスカラ、隨ヒマシテ撒布セラレル資金ガ吸收セラレルト云フコトハ自然ノ道理デアリマシテ、即チ「インフレ」防止ノ一作用ヲ爲スト考ヘテ居ルノデアリマス、即チ此ノ效果ニ對シマシテモ期待ハ致シテ居リマスケレドモ、ソレヲ主タル目標ト致シマシテ此ノ案ヲ出

シタ譯デハナク、即チ雙方ヲ見合ツテ提案シタト御諒解ヲ願ヒタイト思ヒマス

○櫻井委員 今回ノ此ノ改正ニ依リマス増收入、之ヲ臨時軍事費ニ繰入レラレマスカドウカ、繰入レルト致シマスレバ、其ノ中ノドノ位ヲ繰入レラレルカ

○櫻井委員 戰費ノ方ニ繰入レマスノハ、從來ノ増稅ト合セマシテ、其ノ一部ヲ軍事費ノ方ニ繰入レルコト相成ツテ居リマス

○櫻井委員 其ノ繰入ノ額ヲ政府委員カラ御説明願ヒタイ

○大矢政府委員 是ハ事實局益金ノ一部モ合セマシテ六億圓ヲ臨時軍事費特別會計ニ繰入レテ居リマス

○櫻井委員 先ノ御説明デ事變以來ノ増稅額ト合セテ、ソレニ事實局ノ益金モ合セタモノノ中カラ六億圓ヲ軍事費ニ繰入レル、斯ウ云フコトデアリマスカ——先ヅ此處デ政府委員カラ事變以來ノ増稅額ヲ御示シ願ヒタイノデアリマス、ソレト共ニ事實局益金カラ幾ラ繰入レラレタカ、増稅額ハ今度ノ分ヲ加ヘマスト十三億六千萬圓位ニナルノデアリマスガ、ソレニ事實局益金ヲ加ヘタモノ、其ノ中ノ六億ヲ軍事費ニ繰入レタ、他ノモノハ繰入レナイ、ソレニハ何等カノ目標ガアルノデアリマスカ、理論ガアルノデアリマスカ、ソレヲ伺ヒタイ

○大矢政府委員 今御尋ノ昭和十二年以來ノ増稅ト云フコトデアリマスルガ、實ハ昭和十二年ノ臨時租稅増徴法ノ三億五千餘萬圓ト云フノハ、是ハ事變前ノ増稅デゴザイマス、隨テ此ノ分ハ事變費繰入ノ問題ハ起ツテ來メス、昭和十三年ノ第一回支那事變ノ増徴ニ依ル增收額ハ、平年度ハ三億三

百萬圓、昭和十四年度ノ第二回支那事變ノ增收ニ依ツテ平年度一億九千五百萬圓、是ダゲガ今日マデノ事變關係ノ増稅ニナツテ居ルノデゴザイマス、ソレニ今回ノ稅制改正ニ依リマシテ國庫ノ增收ガ五億一千萬圓、斯ウ云フ關係ニナリマシタ、事實局益金ノ中ドレ程從來臨時軍事費會計ノ方ニ繰入レテ居ルカ、一寸今手許ニ數字ガアリマセヌケレドモ、數字ハソレ程大キナモノデハナイト存ジテ居リマス、ソレデ是等昭和十三年、十四年ノ増稅額ト、今度ノ増稅額ヲ合セマシテ、而モ十五年度ニ於ケル國庫ノ增收額ハ三億七千三百萬圓トナツテ居リマスガ、ソレ等ヲ合セテ、其ノ中カラ六億圓ダケ臨時軍事費特別會計ニ繰入レル、斯ウ云フ次第デゴザイマス

○櫻井委員 サウスルト六億ヲ繰入レルト云フコトニ付テハ何カ目標ガアルノデアリマスカ、理論ガアルノデアリマスカ

○大矢政府委員 先ヅ大體半分程度ト御承知置キ願ツテ宜イカト思ツテ居リマス

○櫻井委員 半分程度ト定メラレタ理由ヲ伺ヒタイノデアリマス

○大矢政府委員 此ノ度ノ稅制改正ハ根本的ノ改正デゴザイマシテ、ドノ部分ハ事變費ニ充テルモノカ、ドノ部分ハ一般會計ノ歳出ニ充當スベキモノカト云フコト節ヒ分ケスル譯ニハ參ラスノデゴザイマスガ、大體ニ於キマシテ事變發生以來増稅シタ部分ノ今日マデノモノヲ臨時軍事費ニ繰入レルト致シマシテ、今後ハ長期建設ノ段階ニ對應スル稅制ノ體系ヲ整ヘテ行ク、隨テ其ノ中ニハ勿論此ノ臨時軍事費特別會計ノ存置セラレテ居ル以上ハ、相當ノ額ヲ之ニ繰入レナケレバナラヌケレドモ、一方ニ於テ一

般會計ノ方面ニ於テモ軍備ノ充實費ヲ始メト致シマシテ、支那事變以來ノ公債ノ發行額ノ利子ニモ充當スル分ガアルカト思ヒマス、其ノ他恩給年金、各種ノ一般會計ニ於ケル經費ノ増加モアルノデアリマシテ、是等ニ對應スル支出モシナケレバナラス、サウ云フ點モ考慮シテ大體半額ヲ臨時軍事費特別會計ニ繰入レ、アトノ半額ハ一般會計ノ方ニ殘シテ置カウ、斯ウ云フヤウニ考ヘタ次第デアリマス

○櫻井委員 現行直接稅ノ體系ヲ根本的ニ改正セラレタ理由ヲ伺ヒタイ、是ガ今度ノ改正案ノ重點ダト思ヒマスガ、之ニ付テハ世間デハ、斯ウ云フ風ニシテ置イテ、又直グ何時デモ大増稅ガ出來ルヤウニシテ置クンダト云フヤウニ受取ツテ居ル向ガ多イト思ヒマスガ、併シナガラ單ニソレノミデナク幾多ノ理由ガ存スルコト思ヒマスガ、大體ノ根本的ノ體系ヲ改正サレタ理由ノ說明ヲ伺ツテ置キタイ

○大矢政府委員 是ハ今回ノ改正案ノ提案理由ノ說明ト致シマシテ、大臣カラ本會議及ビ當委員會ノ劈頭ニ於テモ御説明申上ゲタ次第デアリマスガ、要スルニ長期建設ノ段階ニ對應シテ稅制ヲ整備スル上ニ於キマシテハ、從來ノ中央、地方ヲ通ズル負擔ノ權衡ヲ圖ル上ノ稅制改正ニ加フルニ、或ル程度ノ國庫ノ增收ヲ圖ルト云フ必要ガアツタノデアリマス、然ルニ從來ノ稅制ノ體系ニ致シテ置キマスルト、其ノ體系ガ古クナツテ居リマシテ、ツギハギノ増稅ヲヤツテ來タ結果ト致シマシテ、例ヘバ第三種所得稅ニ於キマシテ相當高率ノ超過累進稅率ヲ持ツテ居ルノデアリマスケレドモ、其ノ儘適用スル譯ニハ行カナイデ、最高制限緩和

ノ規定モ設ケテ居ルヤウナ次第デアリマシテ、此ノ儘ニシテ更ニ増徴ヲ致シマス、上ノ方ニ付テ更ニ其ノ制限緩和ノ規定ヲモツト強ク改メテ行カナケレバナラヌト云フ點ガアルノデゴザイマス、一方ニ於テ地方稅ニ於テ御承知ノ負擔ノ不均衡ノ根本原因タル戶數割ガアルノデアリマス、是ハ各地區々ニナツテ居リマスガ、國稅地方稅ヲ通ジテ租稅ノ負擔ガ左程重クナイ場合ハマダ忍ブベシトスルモ、最近ノヤウニ國民ノ負擔ガ重クナツテ來タ場合ニ於キマシテ、地方稅ニ於ケル負擔ノ不均衡ヲ其ノ儘ニシテ置クト云フノハ、今後ノ増稅ニ著シイ支障ヲ來スト云フ點モアルノデゴザイマス、隨テドウシテモ相當思ヒ切ツタ改正ヲシナケバレナラヌト云フノガ先ヅ第一ノ考デアリマス、ソコデ一體增收ヲ圖ルニ付キマシテハ、如何ナル體系ニシタガ最も適當カト云フコトニナルノデアリマス、古イコトヲ申上ゲルヤウデアリマスガ、大正九年臨時財政經濟調查會ガ設ケラレマシテ、數年ニ互ツテ我國ノ中央地方ヲ通ズル租稅體系ニ付テ朝野ノ權威者ガ網羅セラレマシテ研究ヲ致シタノデアリマスガ、其ノ當時ニ於キマシテモ先ヅ大體體系ト致シマシテ三ツ考ヘラレル、第一ハ所得稅ヲ中樞ト致シマシテ財產稅ヲ以テ之ヲ補充スル方法デアリマス、第二ハ所得稅ヲ中樞トシテ收益稅ヲ以テ之ヲ補充スル方法デアリマス、第三ハ所得稅ヲ中樞トシテ特別所得稅ヲ補充スル方法デアリマシテ、是等三ツノ體系ハソレ／＼長所モアリマスルガ、又短所モアリマスノデ、何レヲ採ルカト云フコトハ、俄ニ机上デ決メル譯ニハ行キマセス、國民租稅負擔ノ程度トカ、或ハ其ノ稅制ヲ布ク場合ノ國民

經濟ノ狀況トカ、サウ云フ點モ能ク考慮シナケレバナラス、必ズシモ一ツノ税制ガ根本的ニ優レテ居ルト云フコトハ申上ダ兼ネルノデアリマシテ、隨テ此ノ度ノ税制改革ニ於キマシテモ、大體此ノ三ツノ中ドレヲ採ルカト云フコトガ眞先ニ考ヘラレタノデアリマス

第一ノ所得稅ヲ中樞トシテ財產稅ヲ以テ補完スル方法ニハ餘程長所ガアリマス、資產所得ヲ重課スルト云フ點ニ於キマシテハ、是ハ一番長所ガアルコト思ヒマス、無收益財產ニ對シテモ課稅シ得ルト云フ長所モアルノデアリマスガ、一方ニ於テ課稅物件ノ補捉ト云フコトニ付テ中々稅務執行上困難ガアルノデアリマス、又評價ト云フ點ニ付キマシテモ中々困難ガアル、加フルニ是ハ無收益財產ニ對シテモ課稅スルト云フノデアリマスカラシテ、其ノ稅率ヲ相當高ク致シマス、元本ニ食入ツテ行クト云フ大キナ缺點ガアルノデアリマシテ、今日ノ如ク相當國庫ノ增收ヲ圖ラナケレバナラス場合ニ、此ノ財產稅ヲ以テ所得稅ヲ補完スルト云フ方法ヲ採ルノハ適當デハナイト、斯ウ考ヘタ次第デアリマス

第二ノ收益稅ヲ以テ所得稅ヲ補完スル方法ハ從來我國デ採ツテ居タ所ノモノデアリマス、大正十五年ノ稅制改正ノ時以來今日マデ採ツテ居タ傾向デアリマスルガ、唯今日其ノ中デ「家屋稅ハ地方稅トナツテ居ルノデ、一ツノ體系整備ノ上ニ缺クル所ガアルト」言ハレテ居ルノデアリマスガ、之ヲ解カズニ賦課シテ見ルノモノツノ方法デアリマスケレドモ、是モ亦收益稅ノ性質ト致シマシテ、是ヨリ相當大キナ增收ヲ得ルト云フコトハ中々

難カシイノデアリマシテ、結局ニ於テ現實ニ所得ノアルモノニ對シテ相當ノ負擔ヲシテ貰フ以外ニハ相當額ノ增收ヲ舉ゲル途ハナイノデアリマシテ、ソレ是ヲ考ヘマシテ、結局此ノ度採用スルコトニ致シマシタ此ノ分類所得稅、綜合所得稅ノ體系ヲ以テヤツテ行クノガ日本ノ現在ノ財政事情、經濟事情ニ一番即應シタモノデアラウ、斯ウ考ヘタ次第デゴザイマス

櫻井委員 能ク分リマシタガ、ソレデハ分類ト綜合トドチヲ根幹ト見テ居ラルルノデアリマスカ、ドチヲ重點ヲ置イテ居ラルルノデアリマスカ、其ノ點ニ付テ伺ヒタイ

○大矢政府委員 是ハ分類所得稅ハ所得ノ種類ニ應ジマシテ稅率ニ差等ヲ設ケテ、負擔力ニ應ジタ課稅ヲスルト云フ建前ヲ採ツテ居リマス、不動産所得、配當利子所得ノ如キハ資產所得デアリマスカラ、之ニ一番重ク課稅スル、勤務所得ハ一番負擔力ガナイノデアアルカラシテ、之ニハ最モ輕ク課稅スル、商業所得、事業所得ノ如キハ資產、勤務ノ共働ノ所得ト言ハレテ居リマスカラ、中間ノ稅率ニ於テ課稅スル、之ニ依リマシテ所得ノ種類ノ異ナルニ依リ負擔力ノ相違ヲ見テ課稅スルト云フ建前ヲ採ツテ居ルノガ分類所得稅デアリマス、併シ是ノミヲ以テハ各納稅者ノ負擔力ニ即應シタ課稅ハ致シ兼ネル、同ジ種類ノ所得ニアリマシテモ、所得額ノ大小ニ依ツテ又自ラソコニ負擔力ノ差ガアルノデアリマスカラシテ、或ル程度以上ノ大キナ所得ニ對シマシテハ、更ニ此ノ所得ノ多クナルニ從ヒ、負擔力アリト云フコトヲ認メテ課稅シテ行カナケレバナリマセス、此ノ點ニ著眼シタノガ此ノ綜合

所得稅デアリマシテ、隨ヒマシテ此ノ分類所得稅、綜合所得稅兩々相俟ツテ所得ノ種類ニ應ズル負擔力ノ相違、所得ノ高ニ應ズル負擔力ノ相違ト云フモノヲ捉ヘテ課稅シテ、初メテ各人ノ擔稅能力ニ應ジタ課稅ヲ爲シ得ルト考ヘテ居リマス、此ノ何レヲ主トシ、何レヲ從トスル譯デハアリマセスガ、兩々相俟ツテ負擔力ニ應ジタ課稅ヲ爲シ得ルモノデアルト、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマス

櫻井委員 分類ト綜合トノ金額ノ内譯ハドウナツテ居リマスカ、又將來金額ヲ多ク期待セラレルノハドチヲ置イテ居ラレルカ、分類ニ多ク置イテ居ラレルノデアリマセスカ、其ノ考ヘ方ヲ一ツ御説明願ヒタイ

○大矢政府委員 歲入金額ノ方カラ申上デマスレバ、分類所得稅ノ方ハ幾ラカ多クナツテ居リマス、平年度ニ於キマシテ、分類所得稅ハ五億八千六百萬圓、綜合所得稅ハ四億六千一百萬圓、斯ウ云フ風ニナツテ居リマス、將來一體此ノ兩者ノ中デ何レニ重キヲ置イテ增收ヲ圖ルカ、斯ウ云フコトデゴザイマスガ、此ノ度ノ稅制改正ニ於キマシテ、此ノ所得稅ノ制度ニ彈力性ヲ持タセルト云フニハ、主トシテ分類所得稅ノ方ヲ考ヘテ居ルノデアリマシテ、隨テ將來增收ヲ圖ル場合ニ於キマシテハ、何レカト云ヒマスレバ分類所得稅ニ依存スルコトガ多イコトト存ジテ居リマス

○櫻井委員 次ニ此ノ直接稅ト間接稅ノコトデアリマスガ、此ノ割合ハ近頃ハ間接稅ノ方ガ其ノ割合ガ減ジテ來テハ居リマスカ、併シナガラ此ノ際ニ於キマシテ、此ノ大衆課稅デアル所ノ間接稅ヲ増徴サレルト

云フコトハ、低物價政策ノ上カラ、又社會情勢ノ上カラ見マシテ、甚ダ是ハ躊躇セラレル問題デアルト思フノデアリマスガ、此ノ點ハ政府ハドウ御考ニナツテ居リマスカ

○大矢政府委員 普通間接稅ハ大衆課稅ニナルモノデ、直接稅ハサウデナイモノト云フ風ニ言ハレテ居リマスケレドモ、マア大體其ノヤウナ傾向ハ持ツテ居リマスガ、必ズシモサウトハ限ラナイト思フノデアリマス、例ヘバ、此ノ度ノ増稅ノ中ニ於キマシテモ遊興飲食稅ノ如キハモウ平年度一億モ突破スルト云フ、非常ニ大キナ收入ヲ舉ゲル種目ニ相成ツテ居リマシテ、間接稅ニ數ヘラレルノデアリマスケレドモ、之ヲ思切ツテ増徴スルカラト云ツテ一般大衆ノ負擔モ著シク重クナル、斯ウ云フコトハ言ハレナイカト思ヒマス、事變下ニ於キマシテ一般ニ國庫ノ增收ヲ圖ル場合ニ於キマシテ、國民ガ廣ク此ノ國費ノ負擔ニ任ズルト云フ建前カラ致シマシテ、一般大衆ノ負擔モ或ル程度重クナルノモ是ハ已ムヲ得ナイカト思ヒマスケレドモ、一面ニ於テ物價政策上非常ニ考慮シナケレバナリマセス此ノ際ト致シマシテハ、間接稅ノ増徴ハ出來得ル限リ奢侈的消費、或ハ負擔ニ餘力ガアツテ消費スル方面ニ重課致シマシテ、成ベク生活必需品ニ屬スルモノニ付キマシテハ負擔増加ノ程度ヲ低クシヨウ、斯ウ云フヤウニ考ヘテ立案シタ次第デアリマス

○櫻井委員 政府ガ此ノ度ノ改正案ヲ提案セラレルニ當ツテ、國民負擔分任ノ精神ヲ擴充スル、或ハ租稅ノ普遍化ヲ圖ル、斯ウ云フコトヲ屢々御説明ニナツテ居ルノデアリマスガ、此ノ言葉ノミカラノ響キヲ考ヘマスト洵ニ結構デアリマス、サウ響キマス

ガ、併シ實際ハドウカト言ヘバ、勤勞所得者ヤ小額所得者ノ負擔ガ重ク相成ルノデアリマス、尙ホ此ノ度現行法ノ免稅點ヲ廢セラレテ控除制度ヲ設ケラレタガ、此ノ控除制度ヲ設ケラレタ精神ヲ伺ヒタイノデアリマス、同時ニ其ノ控除額ヲ六百圓乃至四百圓ニ止メラレルハドウ云フモノデアアルカ、是ハ現行法ヨリハ確カニ重クナツテ居ル、時恰モ九・一八ノ停止令ガアルニ拘ラズ、一方ニ於テハ家族手當ヲ考慮シナケレバナラヌト云フノガ今ノ當面シタ場面デス、其ノ際ニ於テ勤勞所得者ヤ並ニ小額ノ所得者ニ對シテ、形ヲ變ヘテ斯ウ云フ風ニ負擔ヲ重クセラレルト云フコトニ付テハ、ドウモ甚ダ私共ハ考ヘサセラレル問題ガアルノデアリマスガ、政府ノ御考ハドウデアリマスカ、納得ノ出來ルヤウニ一ツ御説明ヲ願ヒタイ、政府委員カラデモ結構デアリマス

○櫻内國務大臣 今日ノヤウナ時代デ、殊ニ物價騰貴ニ際シ小額收入者ガ困ツテ居ル時ニ免稅點ト云フモノヲ更ニ低下シテ、小所得者カラモ稅金ヲ徵ルト云フコトハ甚ダ今日ノ時代ニ即シナイノデハナイカト云フ御尋デアリマスガ、ソレハ實ニ御尤モノ御意見デアリマスケレドモ、ドウシテモ今日ノヤウナ時局ニ於テハ、ヤハリ大衆ニ課稅ヲシテ參ルト云フコトモ亦考ヘナケレバナラヌコトデアリマシテ、特ニ免稅點ト云フモノヲ引下ゲタノデアリマス、併シナガラソレガ非常ナ小額マデ、即チ六百一圓カラ取ラレルト云フコトニナリマスガ、ソレガ非常ニ酷ノヤウニ思ハレマスガ、併シ今回ハ從來ト異リマシテ、可ナリ扶養家族ノ控除ト云フモノヲ増加致シマシタ、從來ハ一人ニ付所得百圓ト云フノヲ、今回ハ凡ソ二百圓程度、即

チ一人當リ稅額デ十二圓ト云フモノヲ控除致スコトニナツタノデアリマス、現在全國平均致シマスト凡ソ三人ノ家族ヲ大抵勤勞階級ノ人ハ持つテ居ルノデアリマス、子供トカ老人トカ、ソレニ今度妻ヲ加ヘタノデアリマシテ、割合ハ三人以上ニ當然ナルノデアリマシテ、此ノ三人ノ家族ノアル人達ニ對シテハ、要スルニ一人當リ十二圓ト云フモノヲ控除致シマスノデ、大體千圓トカ或ハ千五百圓程度位マデハ殆ド免稅ノ中ニ入ルヤウナ狀況ニナルデハナカラウカト思フノデアリマス、獨身ノ人、小額ノ所得ノ人ニハ洵ニ氣ノ毒デアリマスケレドモ、今日ノ如キ時代デアリマスカラ、之ヲ忍ビ戴キタイ、斯様ニ考ヘテ此ノ案ガ出來タヤウナ譯デアリマス、極ク小額ノ即チ千圓内外ノ人ト致シマシテハ、殆ド一家ヲ持つテ居ル者カラ言ヒマス、大シタ増稅ニハナラナイヤウナ數字ガ出テ來ルノデアリマシテ、先ヅ之ニ對シマシテハ我慢ヲ願フヨリ外ナイ、斯様ニ考ヘテ居ルヤウナ譯デアリマス

○櫻井委員 現在ノ免稅點ト比較シテ左程大差ガナイト云フ御説明デアリマシタガ、是ハ後ニ數字のニ何カ御示ヲ願ヒタイ、今御答辯ニナラナクテモ後程デ宜シウゴザイマス、免稅點ノ方法ヲ廢シテ控除制ヲ設ケタト云フ御話ハ大臣カラナカウツタノデアリマスガ、後カラ政府委員ニ御説明願ヒタイ、尙ホ今ノ御説明ノ中ニ獨身者ハ氣ノ毒デアリガ、我慢ヲシテ貰ヒタイト云フコトガアリマシタガ、私ハ獨身者ニ對スル場合ノ考ヘ方ニハ何カ人口國策デモ稅制ニ加味セラレテ、斯様ニ獨身者ニ重クナルヤウナ方法ヲ採ラレタノデハナイカト考ヘタノデアリマスガ、サウデハナイノデアリマスカ、其

ノ御説明ヲ願ヒタイ、實ハ稅制ト人口國策ニ付テハ私ハ政府ニ質シタイノデアリマシテ、厚生大臣ノ出席ヲ要求シテ居ルノデアリマスガ、マダ出ラレヌヤウデアリマスカラ、出ラレナケレバ其ノ部分ダケハ後ニ委員長ニ御願シテ留保シテ置キタイト思ヒマス、尙ホ獨身者ニ對シテハ氣ノ毒ダガ、忍ビデ貰ヒタイト云フ意味ノ御説明ヲモウ一度政府委員カラ願ヒタイト思ヒマス

○大矢政府委員 分類所得稅ニ於キマシテ事業所得、勤勞所得ニ付テ、基礎控除ト云フノヲ設ケタノハドウ云フコトカト云フ御尋デアリマス、從來第三種所得稅ニ於キマシテハ此ノ基礎控除ト云フ制度ハアリマセヌ、免稅點デアリマス、現行法ハ千圓ヲ免稅點ニ致シテ居リマス、隨ヒマシテ千圓ニ達シナイ者ハ第三種所得稅ハ課稅ニナリマセヌガ、千圓以上ノ場合ニハ百分ノ二ノ稅率デ直チニ全額ニ對シテ課稅ヲ受ケル、斯ウ云フコトニナツテ居リマス、此ノ度分類所得稅ニ於キマシテハ、出來ルダケ納稅ノ簡易化ヲ圖ル趣旨カラ致シマシテ比例稅ニ致シタモノデゴザイマス、併シ此ノ比例稅ニ致シマシテ、從來ノ第三種所得稅ニ於ケル場合ト同ジヤウニ免稅點ノ制度ニ致シテ置キマスルト、過日本會議等ニ於キマシテモ御質疑ノアツタヤウニ日給二圓五十錢程度ノ勞働者ト、或ハ四千圓、五千圓ノ勸任官ト同ジヤウナ稅率デ課稅スルコトニナツテ、負擔ノ均衡ヲ得ナイデハナカラウカ、斯ウ云フ議ガ起ツテ來ルノデアリマシテ、サウ云フ點モ十分考慮致シマシテ、比較的小額ノ所得階級ニ於キマシテハ分類所得稅ニ於テ比例稅ヲ採ツテ居ル、斯ウ申シマスケレドモ、實際ノ負擔額カラ言ヒマスレバ、累進稅率

デ以テ、上ハ段々重ク、下ノ方ハ輕クナルト云フ作用ヲ營マシメルヤウニシタイ、斯ウ考ヘテ基礎控除ヲ採用致シタノデアリマス、隨テ勤勞所得ニ付テ申上ゲマス、六百圓ヲ基礎控除致シマスカラシテ、六百圓ノ收入アルモノハ課稅ヲ受ケマセヌ、六百五十圓ノ所得ノアル者ハ六百圓ヲ引イタ殘リノ十圓ニ對シテ百分ノ六ノ稅率デ負擔スル、即チ六十錢ダケノ負擔ニナリマス、之ヲ六百十圓ニ對スル比率ヲ求メマス、千分ノ一ニモ足ラヌノデゴザイマス、同様ニ致シマシテ、六百二十圓ノ收入ノアル場合ニハ千分ノ一・九、六百三十圓ノ場合ニハ千分ノ二・八、六百五十圓ノ場合ニハ千分ノ四・六、七百圓ノ場合ニハ千分ノ八・五、七百二十圓ニ至リマシテ初メテ千分ノ十、即チ百分ノ一ノ稅率ニナツテ居ル、斯ウ云フ風ニナツテ居リマス、ソレカラ順次上ツテ行キマシテ四千圓、五千圓程度ニナリマス、大體百分ノ五トカ、或ハ百分ノ五・二トカ云フ風ニナリマシテ、サウシテ六千圓、七千圓、一万圓ト云フ風ニナルト、殆ド百分ノ六ニ近イ比例稅率ニナル、斯ウ云フ風ニナリマス、即チ基礎控除ハ、分類所得稅ニ於テ無制限ニ比例稅率ヲ適用致シマス、千圓以下或ハ千五百圓以下ノ小額所得者ニ對シテ急激ニ負擔ガ増加致シマスカラシテ、此ノ負擔ノ急激ニ増加スル弊ヲ避ケテ、從來ノ超過累進稅率ノ適用ヲ受ケタト略、同様ナ負擔ニ致シタイ云フ考カラ致シマシテ、基礎控除ヲ採用シタ次第デゴザイマス

ソレカラ獨身者ノ負擔ハ多少重クナル、氣ノ毒ナ點ガアルケレドモ、斯ウ云フ際デアリカラシテ、マア此ノ程度ノ負擔ハ忍ンデ貰ヒタイト云フコトニ付キマシテ、更ニ

私ニモ御尋ガアツタヤウデゴザイマスルガ、是ハ要スルニ家族ガアル場合、或ハ妻ガアルトカ、或ハ老人、子供ガアルト云フヤウナ場合ニハ、ソレ等ノ家計費ノ爲ニ獨身者ニ較ベマシテ、サウ云フ者ハ負擔力ガ減殺サレテ居ルノデゴザイマス、ソレデ從來ノ一人當リ百圓ヲ控除スル制度ハ、此ノ扶養家族ノ控除金額トシテハ、稍、少ナキニ失スル憾ガアリマスカラシテ、之ヲ相當擴張致シマシテ、勤勞所得ニ付キマシテハ、大體二倍程度ニ擴張シタ結果ニナルト思フノデアリマシテ、要スルニ其ノヤウナ扶養家族ノアル者ハ、獨身者ニ比ベテ負擔力ガナイカラシテ此ノ稅法ノ上デ其ノ點ヲ考慮シタ、結果ニ於キマシテ獨身者ニ重クナツテ居リマスケレドモ、佛蘭西等ニ於キマシテ獨身者ニ對スル特別ノ稅、獨身者稅ト云フモノヲ起シテ課稅スル趣旨トハ、少シク違ツテ居リマス、併シ一面人口政策等ヲモ加味シタノデハナカラウカ、斯ウ申シマスレバ、勿論サウ云フ點モ考慮シテ居リマスノデ、斯ノ如ク致シマスレバ、結果ニ於テヤハリ人口政策ト合致スル點ガアル、斯ウ申上ダラレルカト存ジマス

ト自ラ考ヘテ居ツタガ、何ゾ圖ラン、實際ヲ調ベテ見マス、支那ヨリモ人口増加率ハ少イ、「ソ」聯ヨリモ少イ、四億何千万人ノ支那、二億ノ「ソ」聯、其ノ中間ニアル我國ガ、此ノ二大國ノ間ニ介シテ、而モ人口増加率ガ兩者ニ劣ルト云フコトハ、國家ノ將來ニ取ツテ由々シキコトデア、ソレニハ國家トシテ適切ナル人口政策ガナケレバナラス、ソレハ稅制ニ於テ相當ナ案ガ立テ得ルノデア、アルカラ定メテ其ノ案ガ現ハレテ來ルダラウト期待シテ居ツタノデアリマスガ、今ノ大藏省ノ御説明ノ限リニ於テハ、マアサウ云フコトニモナラウト云フ程度デアリマス、ソレヲ深ク國策トシテ御考ニナツテ居ル態度デハナイ、私ハ此ノ點ヲ甚ダ遺憾ニ考ヘマスガ、是ハ尙ホ一ツ厚生大臣ニ改メテ承リタイト思ヒマス

次ニ一般所得稅ノ課稅最低限ヲ五千圓ト云フ程度ニ御定メニナツタノハ、何カ理論ガアツタノデアリマス、私ハ前提ニ於テモ御尋シタ趣旨ニ依リマシテ、寧ロ最低限ヲ今少シク引上ゲラレハドウカト云フ考ヲ持ツノデアリマスガ、之ニ對スル政府ノ御答辯ヲ願ヒタイ

○櫻井委員 五千圓ト云フコトノ標準ニ致シマシタノハ、從來カラノ實情等ヲ考ヘマシテ、五千圓ト云フノハ日本ノ今日ノ實情カラ言ヘバ、相當ニ收入ノアル者ト看做シマシテ、先ヅ五千圓マデラ一般ノ階級トシ、五千圓以上ハ特ニ相當ノ收額ノアル者、日本ノ現在ノ生活狀態カラ言ヘバ餘裕ノアル者、斯様ニ考ヘマシテ、五千圓ヲ一ツノ階級トシタノデアリマス

○堀切委員長 櫻井君、厚生大臣ト商工大臣ハ分科會ノ關係デ、一寸手ガ離セナイサ

ウデス、政府委員デ宜ケレバ寄越スト云フコトデスガ、如何デスカ

○櫻井委員 留保致シマス——今ノ御答辯デハ引上ゲル意思ハナイト云フコトデアリマスガ、是ハ尙ホ一應篤ト御考慮願ツタ方ガ宜イカト思ヒマス

○大矢政府委員 大臣カラ既ニ御答シテアルノデアリマスガ、私カラ尙ホ一寸補足シテ申上ゲタイト存ジマス、大體此ノ度ノ稅制改正ニ當リマシテハ、出來ルダケ納稅者ノ側カラ言ツテモ、稅ガ納メ易ク、徵稅者ノ側カラ言ツテモ餘リ手數ヲ掛ケナイ方法デヤリタイ、斯ウ考ヘタノデゴザイマス、隨テ源泉デ徵收シ得ルモノハ、出來ルダケ源泉徵收デヤツタ方ガ宜イ、斯ウ云フ風ニ考ヘタノデアリマス、稅務署ノ調査ニ依ツテ賦課決定スル範圍ハ出來ルダケ少クスルト云フコトハ、官廳ノ方カラ言ヒマシテモ手數ヲ省ク意味ニ於テ宜シイ、又納稅者ノ側ニ於キマシテモ納メル上ニ於テ都合カト存ジテ居リマスルガ、一方分類所得稅ニ於テハ比例稅ニテ課稅スル關係上、若シモ其ノ綜合課稅ヲ受クル限界點ヲ高メマスルト、分類所得稅ノ稅率ヲ相當高クシナイト國庫ノ增收ハ得ラレナイ、却テ減收ニナル、斯ウ云フ結果ヲ來ス、其ノ點ヲ救済スル爲ニ、ソレデハ分類所得稅ノ稅率ヲ相當高メタラドウカト云フコトニナリマスルガ、サウナルト小額所得者ノ方デキツクナル、ソレデハ基礎控除ヲ今ノ六百圓、四百圓ヲモツト高ク、千圓トカ八百圓トカニシタラドウカト云フコトモ考ヘラレルノデアリマスルガ、サウ致シマス、結局現在ニ於テモ各國ニ比ベテ日本デハ所得稅ノ納稅者ガ少ナイ、小額タリトモ餘リ手數ガ掛ラ

ズ、費用ガ掛ラナイナラバ、成ベク多クノ人ニ所得稅ヲ納メサセルヤウニシタラ宜イデハナイカト云フ意見ノ方モ多イノデアリマシテ、私共モ其ノ點御尤モト考ヘマス、サウ云フ點ヲ色々考慮致シマシテ、一方ニ於テハ五千圓ヨリモモツト引上ゲルト云フ案モ考ヘテ見タノデアリマス、或ル場合ニハ六千圓、八千圓ト云フ案モ考ヘテ見タノデアリマスケレドモ、ドウモ巧ク行キマセヌ、ソレカラ又分類所得稅ノ稅率ハ稍、重キニ失スルデハナカラウカ、モウ少シ分類所得稅ノ稅率ヲ引下ゲテ、一方ニ於テ綜合課稅ノ限界點ヲアベコベニ低メテ三千圓程度ニシタラドウカト云フコトモ考ヘテ見タノデアリマシタケレドモ、斯ウスルト折角納稅者ノ側カラモ亦徵稅者ノ側カラ言ツテモ手數ヲ省クコト云フ趣旨ニハ合致シナイト云フ點ガアルノデアリマス、尙ホ現在ノ第三種所得稅及ビ其ノ附加稅ノ納稅額ト此ノ度ノ分類所得稅、ソレカラ綜合所得稅ノ兩方通算シタ稅額ヲ睨合セテ見テモ、分類所得稅ノ稅率ヲ此ノ程度ニ致シテ置キマスルト、綜合課稅ノ限界點ヲ五千圓ヨリモモツト引上ゲルト致シマス、六千圓、七千圓ノ人ハ却テ減稅ニナルト云フ結果ヲ來スノデアリマシテ、サウ云フ點ヲ考ヘマス、ドウシテモヤハリ五千圓程度ニ置カケレバ工合ガ惡イト云フ結論ニナツタノデゴザイマス、ソコデ多額所得者ニ對シテハ負擔力ガアルカラ超過累進稅率デ課稅スルト云フコトモ、五千圓ノ所得者ヲ果シテ多額所得者ト言ヘルカドウカト云フ問題ガ一ツアルノデアリマスガ、是モ丁度小額所得者ニ於キマシテ基礎控除ヲ致スト同ジヤウニ五千圓ヲ超過スル場合ニ於テ、其ノ超過額

ダケニ對シテ超過累進稅率ヲ盛ルト云フコトニナリマスカラ、五千圓ヲ超過シタ五千五百圓ノ人ニ對シテハ、其ノ超過額五百圓ニ對シテ百分ノ十ノ稅率ヲ盛ルト云フ風ニ致シマシタ、隨テ五千五百圓全體ニ對シテ其ノ超過累進稅率デ課稅シタ稅額ト比較スルト、稅率其ノモノガ非常ニ低クナルト云フ結果ニナリマスカラ、先ツソレ等ノ點ヲ考慮致シマスト、此ノ綜合課稅ノ界限點ヲ五千圓ニスルノガ適當デハナカラウカ、現在ノ第三種所得稅納稅者ノ負擔ノ狀況ヲモ考ヘマシテ、改正法ニ依ツテ負擔ノ移リ變リノ時ニ於キマシテモ、一般ノ者ガ增稅ニナル際ニ六千圓、七千圓程度ノ者ガ却テ減稅ニナルト云フノモ如何カト考ヘマシテ、五千圓ヲ界限ト致シタ次第アリマス

○櫻井委員 次ニ改正案ニ於テハ、株式ノ配當利子ノ二割控除ヲ廢止シテ、株式取得ニ要シタル負債ノ利子ヲ控除スルト云フヤウニ變ヘテ居ラレマスガ、此ノ負債ハ株式取得ニ要シタル負債ダト云フコトヲ一體政府ハ何ニ依ツテ判別セラレル御考デアルカ、負債ノ内容ハ色々アルト思ヒマスガ、政府ハドウシテ此ノ負債ハ株式取得ニ要シタモノデアルト云フコトヲ認定セラレルカ、事實困難ナ出來ナイ制度ヲ設ケラレタモノト思フ

○大矢政府委員 其ノ點ハ仰セノ通り或ル程度ノ困難ハ存スルト思ヒマス、併シ現行法ニ於キマシテモ、例ヘバ商業所得或ハ貸地貸家ノ所得ニ於キマシテ、此ノ所得ヲ得ルニ必要ナル借金ノ利子ハ之ヲ必要經費トシテ見ルト云フ制度ヲ採ツテ居リマスシ、是ガ適用ヲ受ケテ居ル者ハ相當アルノデアリマス、隨ヒマシテ配當所得ニ限ツテ其ノ

計算ハドウシテモ出來ナイト云フ風ニハ考ヘラレナイノデアリマス、唯從來此ノ株式取得ニ要シタル借金ノ利息デアラウガ、或ハ其ノ他ノ借金ノ利息デアラウガ、株式配當ノ所得カラ之ヲ必要經費トシテ控除スルト云フ制度ヲ設ケテ居ナカツタ關係上、現在マデニ借金株式ヲ持ツタト云フ人ハ、其ノ立證ハ稍、困難ナ點ガアルト思ヒマス、併シ此ノ度ノ改正法ガ成立シテ實施致サレマスト、將來新シク株式ニ投資スルガ爲メノ借金ヲシタ場合ニハ、其ノ借金ノ利息ハ控除スルト云フ制度ニナリマスカラ、其ノ適用ヲ受ケヨウトスル人ハ、ソレニ對シテ相當ノ用意ヲシテ掛ルコトカト存ジマス、銀行カラノ借入ノ時期、借入ノ金額、株式取得ノ時期、其ノ取得ニ要シタル金額等ヲ見比べマスト、先ヅ常識デ判斷致シマシテ、是ガ株式取得ニ要シタル借金デアラカドウカト云フ認定ハ付ケ得ラレルト存ズルノデアリマス、隨ヒマシテ此ノ制度ガ將來長ク施行セラレテ行キマスト、今ノ御心配ハ大部分取去ラレルコトト存ジマスガ、問題ハ此ノ施行ノ過渡期ニ於キマシテ、從來借金シテ持ツタ株ノコトハドウスルカト云フコトガ一つ殘ルト思ヒマス、併シ是ハ要スルニ過渡期ノ問題デゴザイマスルカラ、其ノ點ハ私共十分考慮致シマシテ、明ニ他ノ用途ニ向ケラレタ借金デアル場合ニハ勿論引キマセヌケレドモ、サウデナイ場合ニハ出來ルダケ其ノ扱ヒヲ無理ノ行カヌヤウニシテ實情ニ即スルヤウニ致シタイト考ヘテ居リマス、結局問題ハ過渡期、一年二年或ハ數年間ノコトカト考ヘテ居リマス

○櫻井委員 私ハ遠イ將來ノコトハチツトモ心配シテ居ラス、私ノ心配シテ居ルノハ、遠イ將來ノコトデハナイ、此ノ法律ガ出來ルナラバ其ノ翌日カラ借金シテ株式ヲ取得スル者ハ、自分ノ利害ニ關スルコトデアルカラ、色々立證デモ取ツテチヤント立證スルヤウニナルカラ、其ノ點ハモウ翌日カラ心配ナイガ、唯現在ノモノヲドウスルカ、是ハ何カ一つノ標準デモハツキリ御定メニナツテ、ソレヲ扱フ官吏ガ過チナク大藏大臣ノ言ハレタヤウナ趣旨デ扱ツテ行ケマスカドウカ、實際ノ場合明ニ是ダケハ株式取得負債デナイト云フコトガ分ルノハ宜シイガ、サウデナケレバ、其ノ以外ノモノハ皆認定デ行クト云フコトニナレバ、其ノ認定ハ、今日ノ役所ノ人ノ實際ノ振振リカラ判斷スルト、株式取得者ニ不利益ナル判斷セラレルコトハ、モウ目ニ見エテ居ル、其ノ通りト思ヒマスガドウデスカ、若シサウトスルナラバ、是ハ明ニ此ノ二割控除ト云フ制度ヲ他ノ方法ニ變ヘルト云フ美名ノ下ニ、實際ハ率以上ノ重課セラレルコトニナル、ソレデモ扱ヒ上法ノ豫期スル通り遺憾ナク行ケルト云フ考デアリマスガ、ドウデスカ、此ノ頃ノ役所ノ總テノ事務ノ扱ヒヲ見ルト、今ノ一般ノ役所ノ事務ノ中心ハ屬官ノ主任位ノ所ト事務官デアル、如何ナル陳情ガ行ツテモ、課長ガ何ト云ハウガ、局長ガ何ト云ハウガ、ソレハ吾々ノ考ダ、殊ニ況ヤ大臣ニ至ツテハ暫クスルト辭メテシマフ、吾々ハチヤント身分保障令ニ依ツテ動キハシナイノダ、斯ウ云フ考ヘ方ノヤウデス、是ハ國民一般ガサウ認メテ居ル、斯ウ云フ情勢ノ下ニ於ケル所ノ扱ヒハ、今アナタノ御説明デテソレハサウヤツテ行クダラウトハ判斷出來ナイ、何カ方法ガアリマスガ、今ノヤウナ出來ルダケト云フ

コトノ御説明ヲ伺ヒタイ

○堀切委員長 一寸御注意致シマスガ、此ノ問題ハ從來アツタ問題デ、又實際上非常ニ問題ノ起ル點デスカラ、此ノ際ハツキリシタ御答辯ヲ願ツテ置キタイト思ヒマス

○大矢政府委員 從來株式取得ニ要シタル借金モ相當立證シ得ルモノガアルト存ジマス、ソレカラ分ラナイ場合ニハドウスルカト云フ御尋デゴザイマスルガ、要スルニ、其ノ人ニ相當借金ガアル、併シ一方ニ於テハ營業モシテ居ル、又株式以外ノ財産モ持ツテ居ル、或ハ邸宅モ持ツテ居ル、邸宅ヲ擔保ニ入レテ借金モシテ居ル、邸宅ヲ擔保ニ入レテ借金シテ居ルノダケレドモ、家ヲ建テル爲メノ借金デハナイ、株式取得ニ要シタル借金デアル、斯ウ云フ場合ニ認メテ吳レルカドウカト云フヤウナコトデアルカト存ジマス、斯ウ云フモノハヤハリ個々ノモノニ付テ判斷シテ行カナケレバナリマセヌノデ、一律ニ家、屋敷ヲ擔保ニシテ借金シタモノハ假令ソレガ明ニ株式取得ニ要シタル借金デモ引カナイト云フ譯ニハ行カナイ、明ニ株式取得ニ要シタル借金ナラバ、是ハ株式取得カラ引カナケレバナラヌト思フノデアリマス、一方ニ於テ又株式ヲ擔保ニシテ居ル借金デモ、其ノ借金ハ他ニ營業ノ方面ニ使用シテ居ル、隨テ營業所得ノ計算上既ニ經費ニ見ラレルト云フヤウナコトモアルダラウト思ヒマス、斯ウ云フモノニ付キマシテハ營業所得デ一旦經費ニ見ラレタ上ニ、更ニ株式取得ノ經費ニ見ルト云フ譯ニモ參ラヌノデアリマシテ、是ハ個々ノ場合ノ實際ニ當ツテ判定スルヨリ外ハナイノデアリマス、此ノ判定ニ當リマシテ今仰セノ通り判任官ノ人ガ居テヤカマシイコトヲ言ツテ、實際

ノ認定ハヤツテ吳レナイト云フ御心配ガアルヤウデ、洵ニ其ノ點モ御尤モト存ジマシテ、是等ニ付キマシテハ、是ガ施行ノ際ニハ十分ニ全國ノ之ニ從事スル官吏ニ對シマシテ此ノ趣旨ヲ徹底セシメテ、苟モ無理ガイカナイヤウニスルト云フノガ一番根本ノモノト存ジマス、個々ノ場合ニ付キマシテハヤハリ個々ノ事情ニ應ジテ措置ヲ執ルヨリ外アリマセヌノデ、之ヲ一律ニ斯ノ如キ場合ニ斯ウスルト云フ風ナ指令ヲ致スノハ困難カト存ジマス

○櫻井委員 今ノ問題ハ運用ガ豫期通りニナラヌト新ニ課稅セラレルト同ジ問題トナルノデアリマス、制度ノ上デハ形ガ變ツテモ負擔ガ從來ト同ジダ、斯ウ云フコトデアツテ、結果ガ從來ト同ジカナレバ、是ハ政府モ噓ヲ付イタコトニナリ、國民モ表面ノ額面ノ受取ト實際ト違フコトニナリマス、其ノ點ヲ憂慮シテノ質問デアツテ、是ハ餘程何等カ御考ニナラナレバ、イカスト思ヒマスガ、尙ホ此ノ問題ハ他ノ機會ニ保留致シテ置キマス

○森委員 一寸關聯シテ……

○堀切委員長 櫻井君宜シウゴザイマスガ——ソレデハ森君

○森委員 一寸簡單ニ關聯シテ伺ヒマスガ、只今ノ問題ニ付テ、之ヲ二割控除ニシテ、又元ニ戻スコトニスルト國家ノ收入ハ何程減ルコトニナリマスカ

○大矢政府委員 正確ナコトハ稍、困難デアリマスガ、一應推定致シタ所ニ依リマスト三千六百萬圓ト存ジテ居リマス

○櫻井委員 近來政府ノヤリ口ガ金融資本ニ厚クシテ産業資本ニ薄イ、否産業資本ヲ虐待スルト云フ聲ガ方々ニ相當アルヤウデ

アリマス、今度ノ改正案ニ關聯シテモサウ云フ議論ガ相當聞エテ居リマス、公債ハ出來ルダケ其ノ消化ヲ滑カニシナレバナラヌ現在デアリマスカラ、暫ク別問題トシテモ、社債トカ預金利子ト云フモノニ付テハ四割控除ヲ認メテ居ル、然ルニ一方配當所得ニ付テハ二割控除モ廢メルト云フ譯デ、形ノ上カラ見ルト、ヤハリ産業資本ヲ虐待スルト云フヤウニ、サウ見ラレテ居ルヤウニ考ヘラレルノデアリマスガ、之ニ對スル考ヘ方ハ如何デアリマスカ

○大矢政府委員 此ノ度社債、銀行預金等ニ付キマシテモ綜合課稅ヲ致スコトニシタノデアリマスガ、從來是等ハ所謂第二種所得ト致シマシテ源泉ニ於テ比例稅課稅セラレテ居タノデアリマス、隨ヒマシテ此ノ際無條件ニ其ノ儘課稅致シマス、相當多額所得者ノ負擔ハ急激ニ増加スルノデアリマス、租稅ノ純粹ノ理論カラ致シマス、ソレダケノ所得ガアルノデアルカラ何等カ割控除ト云フヤウナコトハ考慮ノ必要ガナイデハナイイカト云フノモツノ見方ト存ジマスケレドモ、併シ從來第二種所得ト致シマシテ、源泉ニ於テ比例稅課稅セラレテ居ル、ソレヲ前提ニ致シマシテ、銀行預金ヲシ、或ハ社債ニ投資シテ居ルト云フモノガ、稅制改正ニ依リマシテ急激ニ其ノ負擔ガ三倍、五倍ニナルト云フヤウナコトガアリマス、事實問題トシテハ施行上相當考慮シナレバナラヌ問題カト存ズルノデアリマス、大正九年ニ會社ノ利益配當——

今御話ノアリマシタ株式配當等ヲ綜合課稅ニ致ス場合ニ於テモ、從來是ハ個人ニ於テハ課稅シテ居ナカツタノデアリマス、法人ニ於テ課稅シテ居ルダケデアリマシテ、配當ニ付キマシテハ第三種所得トシテ課稅シテ居ナカツタノデアリマスガ、大正九年ニ於キマシテ、初メテ之ヲ綜合課稅ニ致シタノデアリマスガ、其ノ場合ニ於キマシテモ急激ニ負擔ノ増加ヲ避ケルト云フ趣旨ニ於キマシテ、ヤハリ四割控除シテ課稅シテ居タノデアリマス、其ノ後施行十數年ニナリマシテ、昭和十二年ニ至リマシテ、四割控除ヲ廢止致シマシテ、二割控除ニ致シマシタノハ御承知ノ通りデゴザイマス、此ノ度此ノ二割控除ヲ廢メマスノハ、單純ニ二割控除ヲ廢メテ、配當金ノ收入其ノモノヲ所得ニ見ルノデハゴザイマセヌ、借金ガナケレバ收入金其ノ儘ヲ所得ニ見ルノデアリマスガ、借金ニ依ツテ株ヲ取得シテ居ル者ニ付キマシテハ、其ノ利子ハ差引クノデアリマスカラシテ、借金ノ多イ人ニ取リマシテハ、二割控除以上ニ引カレル結果ニナルカト思ヒマス、個人ノ所得稅ハ、負擔ガ段々重クナルニ從ヒマシテ、是等借金ノアル者ト、ナイ者トニ於キマシテハ、相當負擔力ニ差違ガアルノデアリマスカラ、ヤハリ其ノ點モ十分考慮シナレバナラヌト存ジマシテ、二割控除ヲ撤廢スルト共ニ借金ノ利子ヲ引ク、斯ウ云フコトニシタノデゴザイマス、銀行預金、社債等ニ於キマシテ、綜合課稅ニ當リマシテ、四割控除致シマシタノハ、決シテ産業資本ヲ虐待シテ、金融資本ヲ擁護スルト云フ趣旨デハゴザイマセヌ、産業資本本體ニ付キマシテモ、借金デ投資シテ居ル場合ニハ、負擔ハ非常ニ輕クナツテ、寧ロ或ル意味ニ於ケル健實ナル株式投資ヲ擁護スルト云フコトニナルカト存ズルノデアリマス、一方ニ於テ社債、銀行預金其ノモノガ、一體金融資本ナリヤ否ヤ

ト云フコトニ付テモ、相當疑ガアルノデアリマシテ、社債ノ如キハヤハリ株式ト相竝ンデ、大キナ産業界ノ資金ノ供給ニナルノデアリマシテ、是等ニ對シマシテ急激ニ變動ノ來ナイヤウナ處置ヲ執ルコトハ、ヤハリ産業界全體ノ爲ニモ好マシイコトデハナカラウカト、斯ウ考ヘテ居ル次第デアリマス

○櫻井委員 公社債及ビ銀行預金ノ利子ガ、一般所得ニ對シテ申請ニ依ル場合ハ、選擇制度ノ特例ヲ開ク、百分ノ十五ニ依ツテ源泉課稅サレル、斯ウ云フコトノ便法ヲ開カレタコトニ對シマシテハ、世間兎角ノ物議ガアルソデアリマス、ドウ云フ譯デ斯ウ云フ特例ヲ開カレタカ

○大矢政府委員 前ニ申上ゲマシタ通り、配當利子所得ヲ、綜合課稅スル際ニ於キマシテ、從來第二種ノ所得トシテ課稅ヲ受ケテ居リマス、國債、地方債、社債、銀行預金ノ利子等ニ付キマシテ、四割控除ノ制度ヲ採リマシタガ、併シ是ダケデモ相當負擔ノ激増ヲ來タス方面ガアルマス、唯負擔ノ激増ヲ來タス方面ガアルト云フダケノ理由ニ依リマシテハ、勿論是以上ノ考慮ヲ拂フ必要ガナイトハ存ゼラレマスケレドモ、其ノ結果ト致シマシテ、從來是等ノ定額債券、比較的の低利率ニ甘ンジテ投資シテ居タ者ガ、急激ニ其ノ負擔ガ増加スル結果ト致シマシテ、社債、投資或ハ銀行預金ニ出シテ居ルト云フノヲ止メマシテ、他ノ方面ニ向ケルト云フコトガ考ヘラレナイデモナイノデアリマス、申スマデモナイ此ノ支那事變ト云フ大キナ事變ヲ控ヘテ居リマシテ、金融界ノコトハ非常ニ微妙ナモノガアリマスカラ、假ニモ是等ノ方面ニ不測ノ變動ヲ生ズルト云フ懸念ガ萬一ニモアルナラバ、事變下ト

致シマシテ、出來ルダケ避ケナケレバナラヌ、斯ウ云フ考慮ノ下ニ所謂選擇課稅ト云フ制度ヲ設ケタノデアリマシテ、是ハ本人ガ綜合課稅ノ適用ヲ受ケテモ差支ナイ、從來ノヤウニ投資シテ居ルト云フ風ナ考ノ下ニアレバ、勿論其ノ總綜合課稅スルノデアアルガ、ドウモ綜合課稅スルノデハ從來ノヤウニ銀行預金社債方面ニ投資シテ居ル譯ニハ行カナイ、引出サウト云フヤウナ人ニ對シマシテハ、其ノ申請ニ依ツテ源泉課稅ニスルト云フ制度ヲ存置シテ置キマスレバ、此ノ金融界ノ萬一ノ變動ト云フモノハ避ケ得ラレノデハナカラウカ、貯蓄ノ獎勵、國債ノ消化ト云フモノハ非常ニ重大ナル現下ノ金融界、經濟界ノ事情ノ下ニ於テハ、十分考慮シナケレバナラヌコトデアルト考ヘマシテ、所謂選擇課稅ノ制度ヲ採ツタ次第デアリマス

○櫻井委員 選擇制度ヲ許サレル結果トシテ、超過累進稅率ノ場合ニ於テ考ヘマス、二萬圓マデハ別デアリマスガ、モウソレ以上ノ三萬圓以上八十萬圓マデノ間ニ於テハ稅率ノ上デ損ニナリマスカラ、皆此ノ申請ヲシテ源泉デヤルト云フコトニナルト思フノデアリマス、之ニ付テドウ考ヘマスカ

○大矢政府委員 大體仰セノヤウナ結果ニナルカト存ジマス

○櫻井委員 ソレデハ之ニ揭ゲラレタ三萬圓カラ八十萬圓マデ、即チ百分ノ三十カラ六十五ト云フモノハ空文ニナル、實際ハ行ハレナイト云フ空文ヲ御示シニナツタ、ソレナラ之ヲ空文ト考ヘテ居ラレルノデアリマス、空文ト考ヘテ居ラレルナラバ、何故是ニ御掲載ニナツタカ、是ハ今御答ノヤウニ實際申請ノ方ニ來ルト見ラレタナラ

バ、金額ハドツチニ御考ニナツテ居ルカ、之ヲ三萬圓カラ八十萬圓マデニ於テ課稅出來ルト云フ考ノ下ニ課稅金額ヲ御見積リニナツテ居レバ、茲ニ違算ガ起ツテ來ル、是ハドウ御考ニナルカ

○大矢政府委員 此ノ三萬圓カラ八十萬圓マデノ超過累進稅率ノ刻ミハ結局空文ニ歸スルノデハナカラウカト云フ仰セデアリマス、是ハ實ハ社債、銀行預金以外ニモ原則トシテ總テ個人ノ所得ニ適用ガアルノデアリマス、假令此ノ銀行預金、社債等ニ付キマシテ選擇課稅ノ制度ヲ認メマシテモ、寧ロ此ノ間ノ超過累進稅率ノ適用ヲ受ケルモノガ大部分ヲ占メルモノト考ヘマス、隨テ是ガ空文ニ歸スルト云フ御心配ハ全ク必要ハナイカト存ジマス、ソレカラ歳入ノ見積ノ點ニ付キマシテハ、大體其ノ他ノ所得ノ二萬圓以上アルモノハ選擇課稅ノ方ニ行クモノト考ヘマシテ見積ツテ居ル次第デアリマス

○櫻井委員 先ノ御答辯デハ三萬圓以上八十萬圓マデノモノハ百分ノ十五ノ方デ申請シテ來ル、斯ウ考ヘテ居ルト御説明ニナツテ居ル、後ノ御答辯デハイヤサウデナイ、社債銀行預金以外ノモノモアルカラ、其ノ方ガ綜合ノ方デ來ル、斯ウ云フ御説明デ、御説明ニ矛盾ガアツタト思ヒマスガ、併シナガラ其ノ矛盾ハ暫ク別ト致シマシテ、合セテ百分ノ二十五デ濟ムモノヲ、ドウシテ五十トカ、或ハ六十トカ、六十五トカ、負擔ノ重クナル方ヘソレガ殘ルト云フ風ニ御考ニナルノデアリマス、其ノ御説明ヲ願ヒタイ

○大矢政府委員 一寸御質問ノ要旨ガ聊カ分リ兼ねル點ガアリマスガ、今ノ綜合所得稅ノ稅率ト云フモノハ、公社債利子以外ニ、配當ニ付テモ適用ガアルノデアリマス、其ノ他不動産所得、事業所得、勤勞所得、總テニ適用ガアルノデアリマス、ソレデ偶、銀行預金、社債等ニ付キマシテ、源泉ヲ選擇スル人ニ付キマシテハ、當分ノ間例外トシテ超過累進稅率ノ適用ヲ受ケナイ、斯ウ云フダケノコトデアリマシテ、是ハ當分ノ間、暫定ノ措置デアリマス、隨テ此ノ點ハ此ノ所得稅法ノ附則ニ規定シテアリマス、今同ノ事變ガ終了シマシテ、金融界ノ方ニ付キマシテモ、大體平常通りニナリマスレバ、此ノ選擇課稅ノ制度ハ廢止致シマシテ、原則ニ立歸ツテ、是等ノ銀行預金、社債等モ超過累進稅率ノ適用ヲ受ケル結果トナルノデアリマシテ、法文ノ體裁ト致シマシテハ、是等ニ付キマシテモ超過累進稅率ヲ綜合課稅ヲ受ケルト云フノガ本則デアリマシテ、ソレハ本文ニ規定シテアリマス、源泉選擇ノ方ハ事變下ノ暫定措置トシテ附則ニ規定シテアル、斯ウ云フ次第デアリマス

○武田委員 今ノ問題ニ關聯シテ質問致シタイト思ヒマスガ……

○堀切委員長 ソレデハ關聯事項デスカラドウゾ……

○武田委員 只今ノ櫻井君ノ御質問ニ對シテ、主稅局長ノ御答辯ヲ承ツタノデスガ、私ハ其ノ點ハ斯様ニ解シテ居タノデアリマスガ、如何デアリマス、利子所得ニ對シテ選擇ヲ許シタ場合ニ、二千五百萬圓位ノ金額ガ減ル、ソレヲ補充スル爲ニ分類所得稅ニシタ時、他ノ分類所得稅ハ百分ノ十デアツタモノヲ百分ノ二十五ニスル、ソコデ十五ヲ増セバ其ノ減額シタダケガ補充サレテ、稅ノ徵收額ニハ影響ナイト云フ御計算デ、百

分ノ二十五ニサレタヤウニ私ハ承知シテ居ルノデアリマスガ、ソレハサウ云フコトデナクシテ、選擇者ガ多クナレバソレダケ所得稅ノ總額ガ減ルコトニナルノデアリマス、ドウデアリマス、其ノ點ヲハツキリ承リタイト思ヒマス

○大矢政府委員 此ノ源泉選擇ノ方法ヲ採ラズシテ、總テノ考ガ原則通り綜合課稅ヲ受ケルト云フ場合、ソレカラ今度規定致シマシタ如クニ源泉課稅ヲ選擇シ得ルト云フコトニ致ス結果、租稅收入ノ點ニ付キマシテハ大體千五六百萬圓程度減收ニナル、斯ウ考ヘテ居リマス、ソレカラ源泉選擇ノ場合ニハ、銀行預金、社債等ハ分類所得稅百分ノ十ノ課稅ヲ受ケル上ニ、更ニ綜合ニ代ル分トシテ百分ノ十五ノ課稅ヲ受ケテ、結局分類ト綜合所得ニ代ル分ト兩方通算致シマス、利子受取額ノ百分ノ二十五ノ率ヲ以テ課稅ヲ受ケル、斯ウ云フコトニナリマス

○武田委員 今私ノ承ツテ居ルコトハサウ云フコトデアリマス、分類所得稅ハ分類所得稅トシテ百分ノ十ヲ拂フ、是ハ當然デアリマス、即チ超過累進所得稅ヲ止メテ分類所得稅ヲ選擇シタ場合ニ、更ニ十五ヲ課ケルコトハ當然デアリマス、其ノ事ヲ伺ツテ居ルノデアリマセ、唯選擇ヲ自由ニシタ場合ニ、先程櫻井君カラ申サレタ通り、私ノ計算スル所モサウデアリマスガ、三萬圓以上ノ所得ノ者ハ總テ選擇ヲスル、斯ウ見ル場合ガ是ハ常識デアリマスカ、サウシタ場合ニ總テノ人ガ累進ヲ止メテ分類ヲ選擇シタ場合ニ減ズル稅額ト、ソレカラ十五%ヲ更ニ課ケタ其ノ稅額トハ、稍、吊リ合フノデアアルマイカ、斯ウ云フコ

トヲ伺ツテ居ルノデアリマス、ソレガ吊合
フノカ、吊合ハスノカ、詰リ總稅額ニ於テ
原則通りニシタノモ、例外ヲ置イタノモ、
結局所得稅トシテ收入サレル總額ニ變化ハ
ナイノデアアルマイカ、或ハ變化ガアルナ
ラバ、其ノ額ハドノ位ニナルカト云フコト
ヲ伺ツテ居ルノデアリマス

○大矢政府委員 他ノ所得ガ二萬圓以上ア
ル者ハ、總テ此ノ源泉課稅ヲ選擇スルト云
フ風ニ見テ見積リマスト千五六百萬圓減收
ニナリマス

○武田委員 斯様ニ諒解シテ宜シイノデア
リマスカ、分類所得稅ヲ選擇シタ人ハ、分
類所得稅ノ外ニ百分ノ十五ヲ課稅サレル
ノデアリマスガ、ソレヲ加ヘテ差引シテモ、
尙ホ千五六百萬圓減ズル、斯ウ云フ意味ナ
ノデアリマスカ

○大矢政府委員 其ノ通りデアリマス

○櫻井委員 今ノ選擇ノ特例ヲ設ケラレタ
コトニ付マシテハ、世間デモ隨分物議ガ
アル、私ハサウ云フ内容ヲ打明ケテ質問ハ
致シマセヌケレドモ、ドウモ此處ガ今度ノ
改正案ノ一番ノ弱點デハナイカト思ヒマス、
一ツ詳シク御聽モシタイノデアリマスケレ
ドモ、是ハ次ノ機會ニ讓ルコトニ致シマ
ス、唯附加ヘテ置クノハ、此處ニモ產業資
本ト金融資本トニ對スル政府ノ態度ガ、區
別ガアルト云フ風ニ判斷スル者ガアル、
是ハ遺憾デアリマス、私カラ考ヘマスレバ
ヤハリ相當ニ公社債、貯蓄ノ方ヲ考ヘテ、公
債消化ヲ滑カニシナケレバナリマセヌカ
ラ、政府ハ此ノ點ニ相當ニ苦心ガアツタト
ハ思ヒマスケレドモ、經過カラ甚ダ面白カ
ラス、世間ハ想像ヲ致シテ居リマス、斯ウ
云フ思想ノアルコトニ對シテハ、政府ハ適

當ノ方法ヲ以テ、其ノ疑惑ヲ一掃サレルコ
トガ必要デアアル、斯ウ考ヘルノデアリマス
次ニ無記名公社債ノ綜合所得ニ課稅スル場
合ニハドウ云フ方法デアルノデアリマスカ、
是ハ政府ニ何カ方法ノ確信ガアルノデアリ
マスカ、序ニ無記名公社債ノ總額ガ幾ラア
レバソレ、分ラナイモノニ對シテハドウ云
フ風ニシテ綜合課稅ノ目的ヲ達セラレル
カ、其ノ他ノ御説明ヲ願ヒマス

○大矢政府委員 御承知ノ通り綜合課稅ハ
五千圓以上ノ所得ノアル人ニ限リ課稅致ス
ノデアリマシテ、全國ノ納稅者ト致シマシテモ
二十五、六萬程度カト存ジマス、ソレデ無
記名公社債ノ綜合課稅スル場合ニハ、原則
ハ本人ノ申告ニ俟ツノデアリマス、一方ニ
於キマシテ間接ノ資料ト致シマシテ、無記
名公社債ノ利子支拂ノ場合ニ受取人ヲシテ
利子ノ受領票ト云フモノヲ支拂者ニ出サセ
マシテ、其ノ票ヲ稅務署ニヤツテ貰ツテ、
ソレヲ課稅ノ資料ニシテ綜合ノ實ヲ舉ゲタ
イ、斯ウ存ジテ居リマス、無記名公社債ノ
綜合課稅ハ、是ハ實行上相當ノ困難ガアル
ト云フコトハ私共考ヘテ居リマスガ、日本
ノ國民ノ納稅ニ對スル觀念カラ致シマシテ、
又稅務署ノ現在ノ調査能力カラ致シマシテ、
是ハ絕對ニ克服シ得ナイ程度ノ困難デハナ
カラウ、斯ウ考ヘテ居ルノデアリマス、勿
論綜合課稅ヲ是等ニ付テ致サズシテ、他ニ
適當ナ方法ニ依ツテ負擔力ニ應ジテ課稅ヲ
爲シ得ル途ガアルナラバ好シク思フコト
トハ致シマセヌケレドモ、他ノ各種ノ觀點
カラ考ヘマシテ、ドウシテモ將來ハ是等ニ
付キマシテモ綜合課稅ヲシナケレバナラス、
世界各國ノ事例ヲ見マシテモ、何レノ國ニ

於キマシテモ、所得稅ニ於キマシテハ是等
ニ付テモ綜合課稅ヲ致シテ居ルト云フ實情
デアリマシテ、又從來我國ノ所得稅法ニ於キ
マシテモ第二種所得ヲ如何ニ扱フカト云フ
コトハ非常ニ困難ナコトデゴザイマシタ、
此ノ際ト致シマシテ之ヲ解決シ得ザレバ、
將來此ノ稅制ニ彈力性ヲ附與スルト云フ點
ガ著シク傷付ケラレル、斯ウ云フ結果ニモ
ナリマスノデ、或ル程度ノ困難ハアツテモ
是ハ已ムヲ得ナイ、出來ルダケ此ノ困難ハ
納稅者ノ納稅道德ト官廳ノ調査能力、兩々
相俟ツテ克服シテ行キタイ、斯ウ云フ風ニ
考ヘテ居リマス

○櫻井委員 次ニ法人ノ所得計算上法人稅
ヲ損失ニ認メナイ、此ノ一事デアリマス、
此ノ結果ハドウモ事實上ノ負擔ノ激増トナ
ルノデヤナイカ、五、六割ノ増稅トナルト
計算スル者モアルヤウデアリマスガ、是ハ
ドウ云フ譯デ從來ト方法ヲ變ヘテ、從來損
金ト認メテ居ツタモノヲ今度損金ニ入レナイ
ノカ、何カ理論カラ來タノデアリマスカ、何
カ外國ノ例デモ御覽ニナツテ斯ウシタ方ガ
宜イト云フコトデアアルノデアリマスカ、其
ノ他ノ理由ガアリマスカ、御伺致シタイ

○大矢政府委員 是ハ從來ハ所得稅、臨時
利得稅ノ如キ稅モ會社ガ現實ニ納付シタ場
合ニ、其ノ會社ノ損金ニ計算シテ居タノデ
アリマスケレドモ、此ノ扱ヒハ理論上適當デ
ナイ點ガアルト存ズルノデアリマス、同じク
租稅ト致シマシテモ、會社ノ損金ニ見ルカド
ウカト云フ點ニ關シテ考ヘテ見ルト、大體二
通りニ分ケラレルト存ジマス、一ツハ地租ト
家屋稅ノ如ク土地ヲ所有シ家屋ヲ所有シテ
居ル場合ニハ、其ノ會社ハドレダケ益金ガア
ラウガ、或ハ損ガアラウガ、常ニ賃賃價格ヲ
標準トシテ一定ノ稅ヲ納メテ行カナケレバ
ナラスト云フヤウナ租稅デアリマス、是ハ所
得ノ有無ニ拘ラズ、額ガ決ツテ必ズ毎年納
メテ行カナケレバナラスモノデアリマスカ
ラシテ、斯ウ云フ租稅ハ會社ノ損ニ見ルベ
キハ當然デアリマス、然ルニ所得稅トカ、
臨時利得稅ト云フモノハ是等ノ稅トハ意味
ガ違フノデアリマシテ、所得稅ハ所得ノア
ル場合ニ課稅セラレル、臨時利得稅ハ利
得ノアル場合ニ課稅スルノデアリマシテ、
而モ其ノ課稅額モ所得ノ高、利得ノ高ニ應
ジテ變化シテ行クノデアリマス、缺損アル
場合ニハ何等課稅ヲ受ケナイ、斯ウ云フノ
デアリマスカラ、是ハ會社ノ方ノ所得ノ中
カラ支拂ハルベキモノデ、決シテ損金トシ
テ支拂フベキモノデハナイト存ジマス、卑
近ナ例ヲ引イテ見レバ、地租家屋稅ノ如キ
ハ會社ノ借入金ニ相當スルヤウナモノデ、
借入金ノ利子ニ似タヤウナモノデアリマシ
テ、利益ガアラウガナカラウガ、毎年々々
一定額ハ支拂ツテ行カナケレバナラス、ソ
レカラ所得稅、臨時利得稅ノ如キハ株主配
當ニ類スル、利益ノ澤山アル場合ニハ其ノ
澤山アツタノニ應ジテ利益配當ヲ多ク得ラ
レル、缺損ノアル場合ニハ全然配當ヲシナ
イ、斯ウ云フヤウナモノト相似タ點ガアル
ノデアリマシテ、隨テ所得稅、臨時利得稅
ハ其ノ所得或ハ利得ノ中カラ支拂ハルベキ
モノト云フノガ、是ハ理論上サウアルベキ
モノト考ヘルノデアリマス、一方ニ於キマシ
テ實際ノ負擔ノ狀況ヲ見マシテモ、從來ノヤ
ウナ扱ヒニ致シマスト會社ノ經理、或ハ負擔
能力ニ應ジテ課稅ニハナツテ居ナイ憾ガア
ルノデアリマス、今一例ヲ舉ゲテ見マス、
資本金百萬圓ノ會社ガ年ニ一割ノ利益ヲ舉

ゲテ居ル場合ヲ假定致シマス、新設法人ト致シマシテ事業年度一年一回ト致シマス、サウ致シマスト從來ノ扱ヒニ依リマス、第一期ノ十萬圓ノ所得ニ對シマシテハ第一種所得稅及ビ附加稅、營業收益稅及ビ附加稅等ヲ合計致シマシテ、稅ノ負擔額ガ三萬六百萬圓ニナリマス、第二期ニ於キマシテモ同ジク十萬圓ノ所得ヲ舉ゲタト致シマス、此ノ第一期ノ稅ニ相當スル三萬六百萬圓ハ第二期ノ經費ニ見ラレマスカラ、隨テ事業カハ十萬圓ノ利益ヲ舉ゲテ居ルニ拘ラズ、其ノ稅ノ負擔ハ一萬七千四百六十一圓ト、斯ウナルノデアリマス、サウシテ此ノ稅ハ第三期ノ損ニ計算サレ、第三期モ同ジヤウニ十萬圓ノ利益ヲ舉ゲルト致シマス、第二期ノ場合ヨリモ稅ノ負擔ガ輕クナル結果ト致シマシテ、課稅上ニ於テハ所得ガ多クナルト云フコトデ、ソレニ對スル稅ハ二萬三千六百十二圓ト云フ風ニナツテ居リマシテ、同ジク每期其ノ事業カハ十萬圓ツツノ利益ヲ舉ゲテ居ルニモ拘ラズ、次ノ期ニ於テハ三萬六百萬圓、次ノ期ニ於テハ一萬七千四百六十一圓、其ノ次ノ期ニ於テハ二萬三千六百十二圓ト云フヤウナ負擔ニナリマシテ、非常ニデコボコガ出テ來ルノデアリマス、然ルニ改正法ニ依リマス、是所得ノ高ニ應ズル負擔ニナリマスカラ、是ガ略、均一ノ稅ニナツテ來ルノデアリマシテ、會社ノ經理カラ言ツテモ、又租稅負擔ノ均衡カラ言ツテモ合理的ニナルノデアリマス、是ハ臨時利得稅ノ課ラナイ場合ノ例デアリマスガ、臨時利得稅ノ課ル場合ヲ拾ツテ見マス、此ノ距リガモツト極端ニナルノデアリマス、何レ是ハ後程計數ヲ現ハシタ表ヲ資料トシテ御配付致シタイト存ジテ居リ

マスガ、非常ニデコボコガアル、例ヘバ今度ハ資本金百萬圓ノ會社ガ年二割ノ利益ヲ舉ゲタ場合ノ例ニ於キマシテハ、現行法ノ負擔ハ第一期十萬圓カラニナリマス、第二期ハ三萬圓、第三期ハ七萬八千圓、斯ウ云フ風ニ非常ニデコボコニナリマス、然ルニ改正法ニ依リマス、第一期ハ八萬三千圓、第二期以降ハ大體七萬八千圓程度デ、均一ニナツテ居ル、斯ウ云フ風ニ致シマシテ、會社ノ經理カラ言ツテ、又租稅負擔ノ狀況カラ言ツテ、此ノ方ガ適切ニナツテ來ル、其ノ會社ガ毎年同ジヤウニ十萬圓ナラ十萬圓、二十萬圓ナラ二十萬圓ノ利益ヲ舉ゲル場合ト致シマシテ左様デアリマス、是ガ又或期ニ於キマシテ三十萬圓ノ利益ヲ舉ゲル、五十萬圓ノ利益ヲ舉ゲルト云フヤウナ場合ニナリマス、此ノデコボコガ尙ホ極端ニナツテ來ル、斯ウ云フコトニナルノデアリマシテ、法人ノ租稅負擔ガ今日ノヤウニ重クナラナイ極ク輕微ノ場合ニ於キマシテハ、之ヲ損金ニ見ヤウガ見マイガ、其ノ負擔ニハ左マデ著シイ變化ハ起ラナカツタノデアリマスガ、今日ノ如ク收益率ノ高イモノニ付キマシテハ、三割以上或ハ五割以上ノ稅ガ課ルト云フ場合ニ從來ノヤウナ計算ニ致シマス、各事業年度ノ負擔ガ非常ニ案サレテ來ルノデアリマス、隨テ理論上所得稅、臨時利得稅ノ如キハ損ニ見レバカラズ、同時ニ又實際ニ於テモ是ハ損ニ見テハ著シイ不均衡ガ起ルカラ、益金カラ支出スルト云フ風ニシナケレバナラヌト考ヘテ居リマス、個人ノ所得稅ニ於キマシテハ從來ニ於テモ是ハ損ニ見テ居リマセヌ、ソレカラ諸外國ノ例ヲ見マシテモ、大部分ノ國ハ何レモ是等ノ稅ハ損ニ見テ居リ

マセヌ、獨リ佛蘭西ニ於テハ損ニ見テ居ルノデアリマスケレドモ、是モ理論上及ビ實際上適當デナイト致シマシテ、時々政府カラ提案サレテ居リマスケレドモ、佛蘭西ノ議會ニ於キマシテハ御承知ノ通り始終ゴタゴタ致シテ居リマシテ、マダ是ハ議會ヲ通過シテ居ナイ、斯ウ云フ風ナ狀況デアリマシテ、其ノ他ノ諸國ニ於テハ總テ是ハ益金カラ支出スル、斯ウ云フ風ニシテ居リマス、ソレカラ此ノ結果ト致シマシテ法人ノ負擔ハ著シク増加スルト云フノデアリマスケレドモ、是ハ計算方法ノ變化ニ依ルモノデハナイト私共考ヘテ居リマス、計算方法ヲ變化シテ、寧ロ會社ノ每事業年度ノ利益ト租稅ノ負擔トハ均衡ヲ得ルヤウニナル、唯稅ノ負擔ハ從來ヨリモ重クナルト云フノハ、要スルニ稅率ノ問題デアルト思ヒマス、計算方法ヲ變更致シマシテモ、稅率ヲ低ク致シマスレバ、租稅負擔ハ輕クナリマス、又計算方法ヲ從來ノヤウニ致シマシテモ、稅率ヲ高ク致シマス、租稅負擔ハ重クナル、斯ウ云フコトニナルノデアリマス、而シテ此ノ度此ノ計算方法ヲ變更致シ、サウシテ稅率モ法人稅ノ稅率、臨時利得稅ノ稅率ヲ此ノ提案ノヤウニ致シマスレバ、全國ノ法人全體ヲ通算致シマシテ、其ノ負擔ノ増加ノ程度ハ大體一割五分程度ニナルト考ヘテ居リマス、他ノ個人所得ノ方面、其ノ他消費稅方面ニ於テモ相當ニ増徴ニナル今日トシテ、法人ノ負擔ハ全體ヲ通ジテ大體一割五分程度ノ増稅ニナルト云フコトハ已ムヲ得ナイコトデアリマシテ、是ガ爲ニ法人負擔ガ急激ニ増加スルト言フ御心配ハ先ヅナカラウカト考ヘテ居リマス

○櫻井委員 税金ヲ損失ニ見ルト見ナイトハ、他ノ課稅率ガ同一デアレバ相違スルコトハ是ハ間違ヒナイ、サウ致シマス一方ニ損失ニ見ナイ結果、稅率ノ方デ加減シテヤル、斯ウ御説明ニナルノデアリマス、其ノ點ヲ承リマス

○大矢政府委員 此ノ計算方法ハ變更スル必要ガアル、而シテ計算方法ヲ斯ク變更致シテ、法人ノ負擔ヲドノ程度ニスレバ宜イカト云フコトヲ検討致シマシテ、今回提案ノ程度ヲ以テ適當ト認メタ、斯ウ云フ次第デゴザイマス、計算方法ヲ變更シタカラト言ツテ手加減シタト申シテハ或ハ聊カ語弊ガアルカト存ジマスカラ、其ノ點ガ申添ヘテ置キマス

○櫻井委員 御説明ハドウモ改正案ハ前ノ場合ト通觀シテ被課稅者ニ不利ナシト云フ風ニ聞エルノデアリマスガ、事實ハ社會デハサウ取ツテ居ラスノデアリマス、一方ニ二種ノ理論ヲ通サレル爲ニドウモ法人ニ大ナル犧牲ヲ拂ハサレルト云フヤウナ觀念ヲ持ツテ居ル、今ノ御説明ダケデハ十分了解ヲ致シ兼ネマスケレドモ、是モ餘リ細カクナリマスカラ、他ノ機會ニ讓ルコトト致シマス

次ニ保險料ヲ控除スル制度ヲドウシテ御廢止ニナリマシタカ、是ナドハ社會政策的ノ見地カラシテモ現行法通りノ方ヲ適當ト思ヒマスガ、何故ニ之ヲ御廢止ニナリマシタカ

○大矢政府委員 保險料控除ヲ此ノ度廢止スルコトニ致シマシタノデアリマスガ、實ハ出來得ルナラバ從來ノヤウニ存置シタイト思ツテ色々研究シテ見タノデゴザイマス、併シ前ニモ申上ゲマシタ通り、此ノ度ハ成バク納稅ノ簡易化ヲ圖ルガ爲ニ、主トシテ

源泉課税シテ行キタイト考ヘマシテ、甲種ノ勤勞所得ト致シマシテ源泉課税ヲ受ケルノガ百七十万人程度ニ上ルカト存ジテ居リマスガ、是等ハ會社等ニ於テ其ノ俸給支拂ノ際ニ、税ニ相當スル部分ヲ天引シテ納税スルト云フコトニナルデアリマスガ、ドウシテモ是ハ出來ルダケ簡易ニ致シマセヌト、計算上又色々誤謬ト云ヤウナコトガ生ジマシテ、其ノ結果折角納税ノ簡易化ヲ圖ラウトシタノガ、却テ反對ノ結果ヲ來スト云フ虞モアルノデゴザイマス、一方ニ於テ此ノ勤勞所得階級ニ付キマシテモ、ドウシテモ扶養家族ノ控除ト云フノハ致サナケレバナラス、是ハ私共絕對ノ要件ダト考ヘテ居リマス、隨テ多少ノ手數ハ犧牲ニ供シテモ、源泉ニ於テ課税スル勤勞所得ニ付キマシテ、家族控除ノ制度ハ認メテ行キマスルガ、更ニ從來ノ如ク保險料ノ控除マデモ致シマスルト、一體其ノ年ニ俸給ノ支拂ヲ受ケル者ガドレダケノ保險料ヲ支拂フカト云フ點ニ付キマシテモ、保險會社ハ一ツデハナク、幾ツモアルノデアリマシテ、各保險會社カラ支拂通知ヲ受ケデモシナケレバ中々其ノ計算ガ立タヌ、ソレガ各人ニ依ツテ色々違ヒ、極端ニ申セバ毎月デモ違フト云フコトガ起ツテ來ルカト存ジマス、是等ノ納税ヲ主トシテ居ル會社ノ經理擔當者ニ其ノ計算ノ事務ヲ負ハセルト云フノハ如何カト存ジマス、非常ニ煩瑣ナコトデ實行上餘程ノ困難ガ豫想セラレマス、ソコ出來ルダケ扶養家族ノ控除ハ、一人當リノ控除金額、或ハ又從來三千圓以下ニ付テ控除シテ居リマスガ、之ヲ五千圓以下マデ認メルトカ、或ハ妻マデモ扶養家族ノ一人ニ認メルトカ云フ風ニ致シマシテ、扶養家族ノ制度

ヲ思切ツテ擴張シテ、サウシテ御説ノヤウナ社會政策的ナ、人口政策的ノ意味ヲ玆ニ出來ルダケ加味シテ、保險料ノ控除ハ先ヅ眼ヲ瞑ラウカ、保險料ノ控除ハ、考ヘテ見レバ時局下ニ於テ貯蓄獎勵モセラレテ居ル際ニ必要ナコトデアルト云フ御意見ハ御尤モデアリマスケレドモ、併シ此ノ性質上扶養家族ノ控除ノヤウナ絕對ノモノトハ考ヘテ居リマセヌ、保險料ノ控除ヲスルナラバ、其ノ外ニ或ハ郵便貯金ヲスル者ニ付テモ控除ヲ認メテモ宜イデハナカラウカト云フ議論モ亦起ツテ來ルノデハナカラウカト思ヒマス、是ハ扶養家族ノ控除程絕對ノモノトハ考ヘラレナイノデアリマス、サウ云フ點ヲ考慮致シマシテ、少クトモ此ノ大變革期ニ當ツテ、施行ノ當初成ベク徵收事務者ニ對シマシテ餘リ煩雜ナ手數ヲ掛ケサセルト云フコトハ避ケタイト云フ趣旨ヲ根本ト致シマシテ、保險料ノ控除ハ見合セルコトニシタノデアリマス、一方分類所得税ニ於テ保險料ノ控除ヲ見合セルト致シマスルト、一方五千圓以上ノ大所得者ニ對シテモ保險料ノ控除ヲ認メルノハ如何カト存ジマシテ、是等綜合課税ヲ受ケルモノニ付テモ保險料ノ控除ヲ見合セルコトニシタノデアリマス

尚ホモウ一言申添ヘテ置キタイノハ、保險料ノ控除ハ年額二百圓ヲ限ツテ總テ人ニ控除ヲ認メテ居ル結果、小額所得者ノ方ハ中々年額二百圓マデノ保險料ヲ掛ケテ居リマセヌ、ソレデ多額所得者ニナレバ二百圓マデ掛ケテ居ル、斯ウ云フ風ニナリマスカラシテ、寧ろ扶養家族ノ控除ノ範圍ヲ擴大シタ方ガ社會政策ニ合致スル點ガ多カラウト、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマス

○櫻井委員 次ニ地方分與稅制度ノ問題デアリマスガ、是ハ大藏大臣並ニ內務大臣ニ聽キタイノデアリマスガ、內務大臣ガオ居デニナリマセヌカラ、內務大臣ニ關スル事柄ハ留保ヲ願フテ置キタイト思ヒマス、地方分與稅制度ニ於ケル分與方法ノ問題此ノ方法ハ一ツ段階デモ設ケテ是非法律ヲ以テ規定セラレテ置キタイト思フ、是ハ地方ノ人モ色々役所ノ其ノ時ノ匙加減、其ノ時ノ氣分デヤラレト安定シタ見透シモ付カナイシ、一々上京シテ陳情モシナケレバナラス、非常ニ煩雜デアルカラ、法律ヲ以テ規定シテ置カレタイ、之ニ對スル政府ノ御答辯ガ願ヒタイト思ヒマス

○櫻井內閣大臣 地方分與稅ノ分與ノ問題ハ、何レ最近所謂地方稅ノ改正案ニ依ツテ御審議ヲ願フ譯デアリマスガ、其ノ方法ハ人口ヲ標準トスルノト、ソレカラ擔稅力ヲ標準トスルノト、之ヲ見合ツテ分與スルコトト致シマスルガ、御話ノ如キ點モアリマスノデ、大體ノコトハ法律ニ依ツテ規定サレルコトニ相成ルコトト思ヒマスノデ、御心配ノヤウナコトハ萬ナイヤウニ存ジテ居リマス

ソレカラ立チマシタ序デアリマスカラ——

先刻御尋ガアリマシテ大分アチコチカラ御議論デアリマシタガ、所謂第二種所得、即チ國債ノ利子、社債ノ利子、斯ウ云フモノノ綜合課税スルコトニ對シテ全部一率デ、或ル程度カラ即チ選擇稅トシタノハ非常ニ産業資本ニ薄クシテ、金融資本ニ厚イ、即チ金融資本ヲ非常ニ保護シテ居ルト云フ風ナ御意見ガ大分アリマシタガ、此ノ點ニ付テ一言私申上ゲテ置キタイト思ヒマス、是ハ主稅局長ノ申シマシタ通り、根本ノ主義ト致シマシテハ總テノ收入ヲ全部綜合致シテ課税スルト云フ事柄ガ最も適當ナ事柄デアルト思ヒマス、併シナガラ從來此ノ種ノ只今問題トナツテ居リマスル所ノ、所謂國債及社債及銀行預金利子、其ノ他ノモノナドハ從來極メテ率ガ低カッタノデアリマス、假リニ全部三萬圓以上ノ所得者ガ選擇ニ依ツテ申出タト致シマシテ、ドウ云フ率ニナルカト言ヒマス、所謂二十五ト云フ率ニナリマス、然ルニ現在ハドウデアルカト云フト、國債其ノ他ニ於キマシテハ、現在マデ四分以下ガ六ニナツテ居リマス、利率四分以上ニナツタモノガ六半ニナツテ居リマス、是ハ二十五ヨリ少シ安クナツテ居リマシテ、今回ノ變ツタ率ニ依リマス、百分ノ十九ニナツテ居リマス、即チ三倍ニナリマス、ソレカラ銀行預金ノ利子、其ノ他ハ百分ノ十二ガ二十五ニ増稅サレルコトトナルノデアリマス、即チ現在ノ利子ノ倍以上ニナリマス、若シ之ヲ更ニ一切サウ云フ風ニ選擇ヲ除イテ徹廢致シタト致シマスルト、ドウナルカト云フト、是ハ收入ニ依ツテハ非常ニ澤山ナ増稅ニナルト思ヒマスガ、此ノ時ニ考ヘナケレバナラスコトハ、現在ノ此ノ時局下ニ於テドウシテモ資本ヲ或ル程度回收ヲシテ、サウシテ一面ニ於テ公債消化力ヲ作ルト云フコトガ必要デアリマス同時ニ所謂之ヲ重要ナル事業ノ資本化スルコトガ必要デアリマスノデ、是等ノ資本ヲ此ノ百分ノ二十五以上、即チ現在ノ率ノ二倍以上ニ稅サレドウ云フ風ニナルカト言ヒマス、結局國債ノ消化ト云フモノニ付キマシテハ重大ナル影響ヲ及ボシテ來ルト思フノデアリマス、現在ト致シマシテハ公債ニ俟ツモノ相當ニ多イノデアリマシテ、其ノ點カラモ斯ウ云フ點ニ對シテ多少考慮ヲ拂ツタノデア

リマス、過渡期ノ、即チ一時的、當分ノ間
ト云フ問題デ、只今ノヤウナ風ニ決定ヲ致
シタノデアリマス、若シサウデアリマセヌ
ト、是ガ綜合課稅ニ依ツテ大キナ資本家ガ
六割モ七割モ取ラレルコトニナリマス、
現在ノ三分五厘程度ノ國債ヲ持ツ者カラ言
ヒマス、非常ナ低金利トナリマスガ、殆
ド公債ヲ持ツコトノ出來ナイト云フ狀態ニ
陥ル虞ガアリマス、斯ウ云フ點ニ付キ
マシテ考慮ヲ拂ヒマシテ、當分ノ間トシテ
斯様ナ方法ヲ採ツタモノデアリマス、此ノ
點ヲドウカ一應御諒解ヲ願ヒタイト思ヒマ
ス

○櫻井委員 今ノ大臣ノ御説明ノ範圍ニ於
キマシテハ、大體私モ同様ニ考ヘルノデア
リマシテ、其ノ點ニハ餘リ多クノ異論ヲ持
タナイ、先程三萬圓以上ハ空文ニナルノデ
ハアリマセスカト言ツタコトハ、是ハ形ノ
上ニ於ケル問題デアアル、唯併シナガラ斯ウ
云フコトダケハ問題ガ多少殘ツテ居ル、是
ハ私ハ言フ積リデハナカッタノデスガ、ド
ウモ一々此ノ預金、公債ヲ皆綜合ニ持ツテ
行カレル結果、誰ガ幾ラ預金ヲシテ居ル、
預金ノ内容ハドウダ、アレハ斯ウダト云フ
コトガ悉ク政府ヘ分ル、是デハドウモソコ
ニ「デリケート」ナ問題ガアツテ、理窟ハ兎
ニ角トシテ、預金モ減ルダラウ、サウナル
ト公債ノ消化ニモ影響スルト云フヤウナ問
題ガ起ルノデアリマセウガ、金融資本ノ側
デハサウ云フコトニ對シテ隨分眞劍ノ何カ
衝撃ヲ受ケタラシメノデス、多分私ハ大藏
省ガ斯ウ云フ點ニモ考慮セラレテ、ソレデ百
分ノ十五デ選擇シ得ルト云フ途ヲ新タニ開
カレタノデハナイカ、斯ウ云フノデス、此
ノ開カレタコトモ必ズシモ惡イトハ申サ

ス、ドウシテモ今日貯蓄ヤ預金ニ影響ガア
ツテ、公債消化ガ滑カニ行カヌヤウナコト
ガアツテハ大變デスカラ、斯ウ云フ點モ私
ハ深ク惡イトシテ追究致スノデアリマセ
ヌ、ケレドモ、唯事業界デハ斯ウ云フコト
ヲ言ツテ居ル、ソレデハ預金者トカ何トカ
云フ金融資本側ハ内幕ガ分ツテイカヌ、併
シ株式ヲ取得スル旨ハ其ノ利子ヲ控除セラ
レル爲ニ、サウ云フモノハ洗ヒ浚ヒ自分ノ
經濟ノ内幕ヲ曝ケ出サレテモ宜イノカト言
ツタ問題ガ殘ツテ來ルト思フ、併シ是モサウ
大シタ問題デアルトハ考ヘマセヌガ、先ヅ
今ノ御説明ガアリマシタカラ、ソレニ因
デ前ノ質疑ノ趣旨ヲ補足シテ申述ベタヤウ
ナ次第デアリマス、ソコデ是デ大體私ノ質疑
ハ終ルノデアリマスガ、唯此處ニ厚生大臣、商
工大臣、內務大臣ガ居ラレナイカラ、此各大
臣ニ對スル質疑ヲ留保シ向ホ適當ノ機會ニ
陸海軍大臣ニ一言尋ネテ見タイコトガアリ
マスカラ、ソレモ委員長ニ願ツテ共ニ留保
ヲシテ置キタイト思フノデアリマス

尙ホ最後ニ私ハ一言大藏大臣ニ希望シテ
置キマスガ、案ハ洵ニ劃期的ノ案デアリ、
根本的ノ改正デアリ、長期建設ニ對應シテ
今日ノ戰時經濟ヲ處理シテ行ク上ニ於テ、
先ヅ大體ニ於テ私ハ是ヨリ仕方ガアルマイ
トハ考ヘマスルガ、全般ヲ通ジテ案其ノモ
トガ總テ完璧デアルトハ考ヘラレナイノデ
アリマス、或ハ經過如何ニ依リマシテハ、
相當政府ノ考慮ヲ願フベキ點モ少クナイノ
デハナイカト思ヒマス、此ノ點ハ政府ニ於
カレテモ能ク御考慮ヲ願ヒタイト云フコト
ヲ要望致シマシテ私ノ質疑ハ是デ打切ルノ
デアリマス

○堀切委員長 ソレデハ櫻井君ニハ厚生大
臣、商工大臣、內務大臣、陸海軍大臣ニ對
スル御質問ヲ保留サレマシテ、他日御發言
ヲ願フコトニ致シマス——次ニ中村三之丞
君

○中村委員 今日ハ大藏大臣ニ對スル質問
ダケト云フコトデアリマスカラ、櫻井氏ノ
質問セラレマシタ以外ノ點ニ付キマシテ、大
藏大臣ニ確メテ置キタイト存ジマス、大藏
大臣ハ五億圓ノ増稅ハ公債ノ利子ヲ支辨ス
ル目的デアルト言ハレマシタ、此ノ御答辯
ハ事變以來増稅毎ニ繰返サレマシタ大藏大
臣ノ御答辯ニハナカツタノデアリマス、從來
ハ二億圓ノ増稅ハ何處カラドウ云フ目的デ
出タノデアルカ、一億ハドウデアルト言ツ
タ時、是ハ色々寄セ合セテ來テ、大體斯ウナ
ツタノデアルト答辯ヲミテ居ラレタノデア
リマスルガ、今回ハ公債ノ利子ヲ支辨ノ爲ノ
目的モ入ツテ居ルト云フコトハ、大藏大臣
ノ御答辯ノ一ツノ進歩デアリマス、私ハ是
ハ一ツノ御答辯ノ進歩ト思ヒマスルガ、然
ラバ來年、又相當ノ公債ガ出テ來ルノデア
リマスカラ、サウ云フ御見地デアルトスレ
バ、來年モ増稅ヲナサナケレバナライ、
來年ト申シマスノハ、此ノ次ノ議會デアリ
マスガ、サウ云フ風ニ解釋ラセザルヲ得ナ
イノデアリマスガ、此ノ點ヲ一ツ確メテ置
キタイノデアリマス

○櫻井內務大臣 ドウモ中村君ノ今ノ御話
ハ私一寸受取レヌノデアリマスガ、私ハ公
債ノ利子ヲ支拂フコトガ其ノ目的ノ一ツダ
ト云フ風ニハ申シテ居ラス積リデス、速記
録ヲ見マシテ、若シサウ云フコトヲ言ツテ
居リマスレバソレハ誤リデアリマス、詰リ
今回ノ増稅ハ公債ノ利子ヲモ支辨シテ尙ホ
餘リアルト云フコトヲ申上ガタノデアリマ
ス

○中村委員 私人言葉ガ足りナカツタカモ
知レマセヌガ、新規ニ公債ノ利子ヲ支辨ス
ル爲ノ目的ニ、此ノ増稅ノ一部分ガ入ツテ
居ルト、斯ウ私ハ聽イタノデアリマスガ、
此ノ點ハ速記録ヲ見ルヨリ外ニ仕方ガナイ
ノデアリマス、大藏大臣ノサウ云フ御答辯
デアラナラバ私ハソレデ諒解致シマスガ、
從來ノ大藏大臣ハサウ云フコトハ中々言ハ
ナカツタノデス、ソレデ私ハ確メルト申上
ガタ譯デアリマス、私共此ノ稅制改革案ヲ
判斷致シマスル前ニ、大藏大臣ノ財政計畫
ニ關スル見透シヲ承ツテ置キタイノデアリ
マス、是ハ私ハムヅカシイコトダト思ヒマ
ス、併シナガラ少クトモ今日ノ戰時財政ハ
國防費ガ中心デアアル、是ハ申スマデモナイ
コトデアリマス、ソレデ長期建設ノ經費ガ
又相當ニ上ツテ居ル、是モ私ハ判斷シ得ラ
レルト思フノデアリマシテ、現ニ大藏大臣ノ
議會ニ於ケル御演說ニ依レバ九億七千萬圓
ガ軍備充實ノ爲デアアル、一億數千萬圓ガ生
産力擴充ノ爲デアルト云ツテ、約十二億圓
ニ上リ、十數項目ノ點ヲ擧ゲテ居ラレルノ
デアリマスカラ、私ハ少クトモ或ル程度ノ
見透シヲ此ノ際御付ケニナツテ居ルト思フ
ノデアリマス、又吾々ハ其ノ點ヲ承リマス
ルコトガ、今回ノ稅制改革案ヲ、吾々ガド
ウスルカト云フ態度ヲ決メル上ニ於キマシ
テ重要ナル資料デアルト思フノデアリマシ
テ、此ノ點御伺ヲ致シマス

○櫻井內務大臣 中村君ノ御質問ハ極メテ
重要ナル御質問ト思フノデアリマス、現在
ノ戰時下ノ經濟ノ前途ニ對スルドウ云フ見
透シヲ持ツテ居ルカ、是ハ今御話ノ如ク之ヲ
見透スト云フコトハ中々容易ノコトデハナ

イノデアリマス、即チ今回ノ事變ガドノ程度ニ發展スルモノデアリカ、又昨今ノ狀態ガ此ノ儘持續スルモノデアリカ、或ハ又事變ガ如何ナル場合ニ於テ突發スルノカ、斯ウ云フ事柄ハ色々研究ノ中ニ入レテ置カナケレバナラスト考ヘマス、唯今日政府トシテ此ノ豫算ヲ立テマシテ、サウシテ進ンデ行キマス、支那事變ガ現狀ノ狀態デアリ、即チ言葉ヲ換ヘテ言ヘバ東亞ノ新秩序、即チ新段階ト云フモノニ對シテ、吾々ガ今考ヘテ居ル所ノ目標ニ向ツテ進ンデ行クト云フ建前カラ、今ノ豫算ヲ作ツテ居ル譯デアリマス、ソレデ今御話ノ所謂軍備充實其ノ他ニ對シテノ問題ハ、所謂本年度新ニ増加スル所ノ費用ヲ御話ニナツタノデアラウト思ヒマスガ、左様ニヤハリ軍備充實ノ費用ナドガ、非常ニ大キナ金額ニナツテ居リマス、隨テ是等ノ問題ヲモ深ク考ヘマセスト、日本ノ財政ノ前途ト云フモノニ對シテ目標ガ立タナイノデアリマス、今私共ノ考ヘテ居リマスノハ、即チ現時ノ支那事變ノ、現在ノ時局ヲ基準トシテ、案ヲ立テテ居ル次第デゴザイマシテ、變化ノアツタ場合ニ於テハ、ソレハ更ニ又考慮ヲ煩ハサナケレバナラスコトト思フノデアリマス、而シテ日本ノ經濟界ノ現狀ハ、御承知ノ通り生産擴充ガ非常ニ必要デアルニ拘ラズ、生産擴充ノ點ニ於テドウモ思フヤウニ出來テ居ナイ、此ノ點ニ依リマシテ仕事ヲスルノニモ、思フヤウニ仕事ガ捗ラヌト云フ點ガアリマス、サウ云フヤウナコトヲ考ヘテ見マス、所謂國防ノ充實ヲ致シマスノニハ、或ル程度民間ノ事業ヲ抑ヘテ、國防ノ充實ニ主ニ力ヲ入レナケレバナラスコトト相成ル譯デアリマシテ、隨テ是ガ經濟上ニ及ボス影響ハ、又

少クナイト思ヒマス、ソレデドウ云フ建前デ進ンデ行ツテ居ルカト申シマス、先ヅ生活必需品ノ確保、ソレカラ輸出ノ振興、生産ノ擴充、同時ニ軍需資材ノ供給確保ト云フコトニ付キマシテハ、ドウシテモ積極的ニヤツテ行カナケレバナラス、斯様ニ考ヘテ居リマス、併シナガラ一面ニ於テ他ノ方面デハ出來ルダケ節約ヲシテ、サウシテ一面ノ緊急已ムヲ得ザル方面ノ補ヒヲ付ケルト云フコトニ對シテ全力ヲ注ギ得ルト云フ建前ニ向ツテ、進ンデ行カナケレバナラヌヤウニ考ヘテ居ルノデアリマス、其ノ意味ニ於キマシテ此ノ豫算ノ實行ニ當リマシテモ、最も慎重ニ取扱ツテ行キタイ、斯様ニ考ヘテ居ルヤウナ次第デアリマス

○中村委員 私ノ考ヘル所ニ依リマスレバ、今大臣ノ仰シヤイマシタ臨時軍事費、是ハ現在ノ支那事變ノ狀態ニ依ツテ判斷セラレルト云フノデアリマスガ、先ヅ今日ノ四十億代ト云フモノハ、是ハ繼續スルノデゴザイマセウガ、併シ問題ハ國民負擔ト最モ關係ノアル一般會計ガ、ドウ云フ足取ヲ以テ、軍事費ノ増加ト長期建設ノ經費ノ下ニ、進ンデ行クカト云フコトヲ、更ニ御聽ヲ致シタイノデス、成程本年度ノ豫算ニハ、九億六千萬圓ノ軍事費ガ新ニ追加トシテ出テ居リマスガ、是ガ段々繼續シテドウ現ハレテ行クカ、ノミナラズ陸軍大臣ノ豫算總會ニ於ケル答辯ニ依レバ、普通ハ二三年デヤル積リデアアルケレドモ、財政ノ關係上マダサウ云フ風ニシテアルノデアツテ、モツト出ルノダ、斯ウ云フ意味ノコトヲハツキリ言ツテ居ルノデス、吾々ハ二三年デヤリタイ、今ノ經濟狀態デ四五年ニナツテ居ルガ、事實ハ二三年デヤリタイノダ、是ハ陸軍大臣

ガ豫算總會ニ於テ明瞭ニ言ツテ居ラレル、現在ノ陸海軍ノ費用ハ二十三億圓、私ハ是ガ段々ニ殖エテ行クノダト思フ、私ハ之ヲ稱シテ靜的軍事費ト云ツテ居リマスガ、此ノ靜的軍事費ガ段々長期建設ノ下ニ殖エテ行クノデアルト云フコトハ、是ハ申スマデモナイコトデアルト存ジマス、サウ云フ風ナ傾向ヲ取ツテ居ルノデゴザイマスカラ、私ハ甚ダ大膽ナ觀察デゴザイマスガ、少クトモ一般會計ノ總額ト云フモノハ、六七十億ノ線ヲ沿ウテ行クノデハナイカ、之ニ對シテ軍事費ガ四十億、五十億、大體此ノ百億圓ノ豫算ト云フモノハ、物動計畫トカ何トカノ對象ハ別トシテ、何トシテモ出テ來ルノデハナイカ、或ハソレヨリ上ヘ行クノカ、斯ウ云フ點ノ御見透シヲ御付ケニナツテ、少クトモ純増五億ノ増稅ヲセラレル、來年ハドウスルカ、一朝戰時ノ需要ニ對シテハ、分類所得稅ハ比例稅デアリマスカラ、直チニ之ヲ増加シテ、戰時ノ姿勢ヲ整ヘテ行クト云フヤウナ御考ガ、此ノ劃期的増稅案ヲ大藏大臣ガ御出シニナツタ所以デハナカラウカト思フノデアリマス、是等ノ點ニ付テ、是ハ大膽ナ御見透シヲ承ル譯デアリマセヌガ、大體サウ云フ風ニ進ンデ行クノデハアルマイカ、私ノ見解ガ誤リデアルカ、君ノ言フコトハ大體間違ッテ居ラヌト云フ御指示ノ御答辯ヲ得タイノデアリマス

○櫻内國務大臣 今日マデノ情勢カラ御判斷ニナリマス、一般國費ガ本年ハ五十八億何千萬圓、是ハ此ノ儘デ進ンデ行クデアラウ、隨テ臨時軍事費ガ四十億以上掛ルカラ、百億ヲ越スノデナイカ、斯ウ云フ御見解ノヤウデアリマス、私モ中村君ノ御意見ニ對シテ、サウデハナイト云フコトヲ申上

ガ豫算總會ニ於テ明瞭ニ言ツテ居ラレル、現在ノ陸海軍ノ費用ハ二十三億圓、私ハ是ガ段々ニ殖エテ行クノダト思フ、私ハ之ヲ稱シテ靜的軍事費ト云ツテ居リマスガ、此ノ靜的軍事費ガ段々長期建設ノ下ニ殖エテ行クノデアルト云フコトハ、是ハ申スマデモナイコトデアルト存ジマス、サウ云フ風ナ傾向ヲ取ツテ居ルノデゴザイマスカラ、私ハ甚ダ大膽ナ觀察デゴザイマスガ、少クトモ一般會計ノ總額ト云フモノハ、六七十億ノ線ヲ沿ウテ行クノデハナイカ、之ニ對シテ軍事費ガ四十億、五十億、大體此ノ百億圓ノ豫算ト云フモノハ、物動計畫トカ何トカノ對象ハ別トシテ、何トシテモ出テ來ルノデハナイカ、或ハソレヨリ上ヘ行クノカ、斯ウ云フ點ノ御見透シヲ御付ケニナツテ、少クトモ純増五億ノ増稅ヲセラレル、來年ハドウスルカ、一朝戰時ノ需要ニ對シテハ、分類所得稅ハ比例稅デアリマスカラ、直チニ之ヲ増加シテ、戰時ノ姿勢ヲ整ヘテ行クト云フヤウナ御考ガ、此ノ劃期的増稅案ヲ大藏大臣ガ御出シニナツタ所以デハナカラウカト思フノデアリマス、是等ノ點ニ付テ、是ハ大膽ナ御見透シヲ承ル譯デアリマセヌガ、大體サウ云フ風ニ進ンデ行クノデハアルマイカ、私ノ見解ガ誤リデアルカ、君ノ言フコトハ大體間違ッテ居ラヌト云フ御指示ノ御答辯ヲ得タイノデアリマス

○櫻内國務大臣 今日マデノ情勢カラ御判斷ニナリマス、一般國費ガ本年ハ五十八億何千萬圓、是ハ此ノ儘デ進ンデ行クデアラウ、隨テ臨時軍事費ガ四十億以上掛ルカラ、百億ヲ越スノデナイカ、斯ウ云フ御見解ノヤウデアリマス、私モ中村君ノ御意見ニ對シテ、サウデハナイト云フコトヲ申上

大體ニ於テハ此ノ豫算ヲドウシテモ實行シ

タルダケノ、今日材料ヲ持ツテ居リマセヌ、大體ニ於テコト數年ノ間ハ——數年先ノコトハ別問題デアリマスガ、コト數年ノ間ハ此ノ經費ハ容易ニ減ラナイデアラウ、申スマデモナク滿洲ヲ開發シナケレバナラス、支那ノ東亞新秩序ニ對スル所ノ金モ投ジテ行カナケレバナラス、又國防ノ充實モシナケレバナラス、隨テ生産ノ擴充モシナケレバナラス、是等ノ點ヲ考ヘマシタ時ニ、中村君ノ御意見ハ私否定スルコトハ出來ナイト思ヒマス、併シナガラ實際ニ行ヒマス上ニ於テ、本年度ノ豫算ハ最も必要ナルモノバカリガ出テ居ルト思ヒマスガ、明年度ノ豫算ヲ假ニ作ルト云フ場合ニ於キマシテハ、日本ノ實際ノ國力ト、又必要性ニ顧ミマシテ、私ハ出來ルダケ此ノ經費ハ、或ル程度節約シテ行カナケレバナラスモノト考ヘマス、隨ヒマシテ本年此ノ豫算ヲ實行スルニ當リマシテモ、十分ニ注意ヲ致シマシテ、若シ少シデモ其ノ費用ヲ減少シ得ル點ガアルナラバ減少スル、又今日ハ必要ト思ヒマスガ、其ノ時ノ經濟狀況ニ顧ミテ、繰延ベテ差支ナイモノガアルナラバ繰延ベテモ差支ナイト思ヒマス、ソレ等ノ點ニ付テハ私ハ出來ル限りノ考慮ヲ拂ハナケレバナラスト考ヘテ居ルノデアリマス、併シ今回ノ豫算ニ付テハ、サウ云フコトガ出來ルカ出來得ナイカト云フコトハ別問題ト致シマシテ、私共ハ總テガ必要ト思ヒマスノデ、此ノ豫算ヲ實行スルコトニ對シテ、努力ヲ致ス考デアリマス、併シ是モ豫テ申シマス通り物ト見合ツテ、物ガドウシテモ出來ヌト云フ場合ニ於キマシテハ、或ハ繰延トカ、節約トカ云フコトニナルカモ知ラヌト存ジマス、大體ニ於テハ此ノ豫算ヲドウシテモ實行シ

テ行キタイト考ヘテ居リマス、前途ニ對シマシテハ當分ノ間多少他ノ一般ノ費用ニ於テ減ラシマシテモ、總テノ國際情勢カラ大ナル國費ヲ減少スルト云フ譯ニハ行カナイデアラウト想像セラレマス、隨ヒマシテ今ノ御話ノ通り、今回ノ増稅ニ於テハ先ヅ現時ノ經濟界ニ打撃ヲ與ヘザル範圍内ニ於テ、即チ國民諸君ガ之ニ耐ヘ得テ下サル範圍内ニ於テノ増稅ヲ出シタノデアリマシテ、今日ノ増稅金額カラ申シマスレバ、今御話ノ通り新規ニ要スル國債ノ利子ハ固ヨリ拂ヒ得ルバカリデナク、其ノ他ノ費用モ拂ヒ得ルト云フコトヲ言ツテ言ヘヌコトハナイ

ニ依ツテ、購買力ノ吸收ノ爲ニ、毎年或ル程度ノ増稅ハドウシテモ行ハレテ行クノデハナйкаト云フ考デゴザイマス、サウ云フ意味ニ於テ私ハ御尋致シタ譯デアリマスガ、大藏大臣ノ只今ノ御答辯ハ私モ謹ンデ拜聽致シタ次第デアリマス

○櫻内國務大臣 今日事變下ニ於テ、所謂事變費ト云フモノヲ第一義ニ置クト云フ點ニ付キマシテハ、全ク其ノ通りニ感ジマスノデ、中村君ノ御意見ニ付キマシテハ、大體ニ於テ私モ反對スル所ハゴザイマセヌ

○堀切委員長 ソレデハ今日ハ此ノ程度ニ致シマシテ、明日午前十時ヨリ開會シテ、中村君ニ引續キ御質問願フコトニ致シマス、今日ハ是デ散會致シマス

午後四時二十三分散會

ノデアリマスガ、ソレヲ目標トシテ増稅シタノデアリマス、即チ中村君ノ御心配ニナツタ通り、今年モ増稅スル、來年國費ガ増セバ又増稅スルト云フヤウナコトデ、此ノ案ヲ作ツタノデハナイノデアリマシテ、私ハ現在ノ情勢デアラナラバ、先ヅ當分此ノ改正稅率ニ依ツテ、財政計畫ハ立チ得ルト、今日ハ信ジテ居ル譯デアリマス

○中村委員 色々議論ハアリマスガ、軍事費、戰費ハ戰時財政上優先權ヲ持ツモノデアルト私ハ思フノデアリマス、是ハ否認出來ナイ、詰リ端的ニ申セバ、國家ノ經濟力、國民ノ所得ノ中カラ軍事費、或ハ軍備費ト云フモノヲ良イ所ヲ先ニ取ツテシマフ、之ヲ支辨スル時ニハドウ云フ經濟統制、ドウ云フ經濟計畫行クカト云フコトガ、財政經濟上ノ英斷ヲ要スル所以デアルト思フノデアリマス、隨テ國民負擔ト此ノ財政ノ將來ノ動向ハ、餘程思切ツタコトニナルト云フ風ニ考ヘテ居ルノデアリマシテ、私ハ此ノ五億ノ増稅ト、尙ホ將來大キイ増稅ハ出來ナイトシテモ、例ヘバ經濟界ノ變遷